

教科(社会科)

目次

要 約	2
1. 社会科に対する気持ち	5
●他教科と比べて	5
●歴史が好き	7
●大事な5、6年生	8
●社会科が嫌いな理由	9
2. 社会科学習の実際	10
●社会科の得意な理由	10
●社会科の勉強の仕方	12
●日常生活の中での取り組み	13
●授業中の気持ち	17
●将来への大切さ	20
●こんな社会科学習を	22
3. 成績と学力観	23
●成績と勉強に向かう気持ち	23
●子どもたちの学力観	25
4. 社会科における学習タイプ	28
●学習タイプと成績	29
●学習タイプと学習観	32
●学習タイプと安定感	34
まとめに代えて	36
シリーズ/講座・子ども調査入門 ⑧ 学業成績	深谷昌志 37
資料1 調査票見本および集計表	42

サンプル数

6年男子986人、女子979人
合計1,965人

調査概要

対象●千葉・神奈川・東京の小学6年生
時期●昭和60年2月～3月
方法●学校通しによる質問紙調査

調査レポート／教科(社会科)

放送大学教授 深谷昌志
千葉市教育センター 上杉賢士
船橋市立高根台第一小学校教諭 新井 誠



① 社会科は6番目

8教科の中で子どもたちが最も好きなものは体育。社会科は6番目で、人気教科ではない。なお、社会科の中で最も好きな領域は歴史であった(図2、3)。



② 5年生から

社会科が好きになる時期、きれいになる時期のいずれも、ほぼ6割の子どもが5年生以後とこたえる(図4、5)。



3 それほど 楽しくない



授業中の気持ちは、「発表できる人がうらやましい」を筆頭に「つらさ」が上位に並び、「楽しさ」を味わう機会はきわめてまれである(図17)。

4 女子の 社会科離れ

相対的には、女子に否定的な傾向が目立つ(図12、19)。



5 成績の良さは努力の結果



社会科ができる理由として、「授業をきちんと聞き」、「予習・復習をする」など努力によるものとみている。特に成績下位の子どもにその傾向が強い(表1)。

6 ハッスル型と勤勉型

「学習態度は整わないが、確かな意欲をもっている子ども」、いわゆる「ハッスル型」は、自信としっかりした見通しをもっている(図28、29、30)。



教科(社会科)



社会科は、戦後の教育改革の中で誕生した新しい教科である。誕生以来、40年近くの年月を経たことになるが、その間、しばしば論議的になった。時には新教育の花形教科ともてはやされ、また時には斜陽教科と呼ばれたりもした。そうした経緯をたどりながらも、最近では、教育現場でほぼ安定したかのようにみえる。

しかし、それでもなお、「何をどう教えてよいかわからない」「社会科の指導はむずかしい」などという現場教師の思い悩む声を耳にする機会が何度となくある。これは、社会科そのものが、理科と並んで広領域を特色とする教科である上に、指導のねらい、内容構成、

授業形態など、
いくつもの吟味・
検討すべき要素がある
ことによるのだろう。

それでは、その社会科に対し、子どもたちはどんな気持ちを抱き、どう授業に取り組んでいるのであろうか。本レポートでは、子どものサイドから、その意識や学習ぶりの実際を探りながら、社会科という教科をめぐる問題の一端を明らかにしてみたい。なお、対象は小学校の社会科を一通り学び終わった6年生に限定し、6年間の社会科の勉強を回想してもらったちで調査票を作成した。

1. 社会科に対する気持ち



他教科と比べて

さっそく、子どもたちが社会科に対してどんな気持ちを抱いているか探ってみよう。

図1は、素朴に、社会科の好き嫌いをたずねた結果である。図が示すように、社会科が「とても好き」という子は17%にすぎず、半数を超える子どもは「やや好き」「やや嫌い」というような中途半端な位置にいる。ただ、このデータを見る限り、一般に言われるほど社会科嫌いが多いわけではない。もちろん、その一方で「とても嫌い」という子どもが4%、クラスに2人ぐらいいるといふ事実も忘れてはなるまい。また、「とても好き」の割合が、男子で24%、女子で9%という数値

からもうかがえるように、性差が一定程度あることも気になりになるが、その考察は後にゆずることにして、もう少し全体の気持ちを追ってみよう。

図2は、他教科と好きな度合いを比べた結果である。子どもたちが最も好きな教科は体育で、以下、家庭科、図工と、いわゆる芸能教科と呼ばれるものが上位を占める。社会科はといえば、6番目に位置し、そこから下には算数と国語が並ぶ。どうも、相対的には社会科は不人気の部類に属するようである。社会科発足をめぐる経緯からは、現在のこうした事態はおそらく予測できなかったであろう。

図1・社会科の勉強は好きか

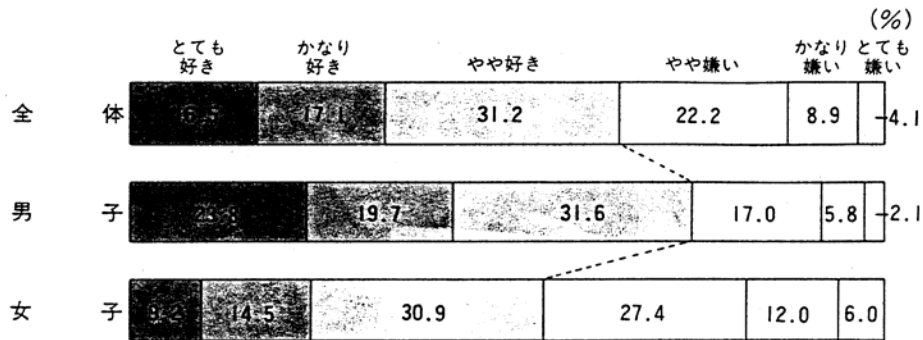
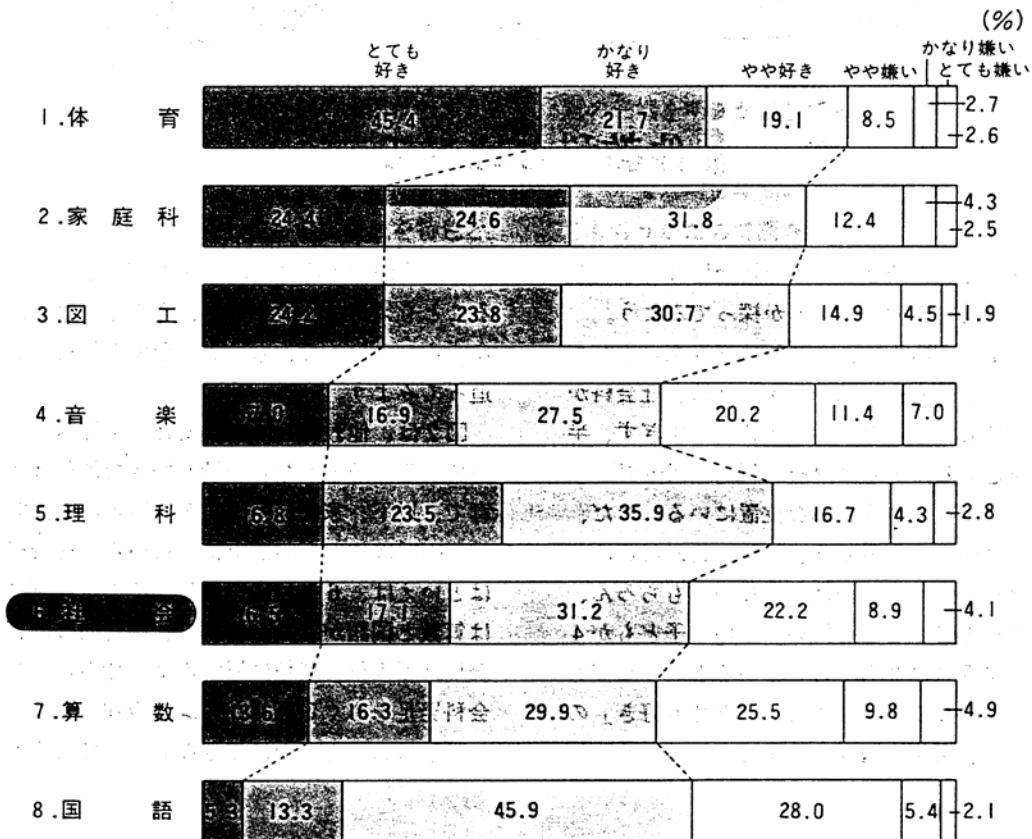


図2・教科の好き・嫌い



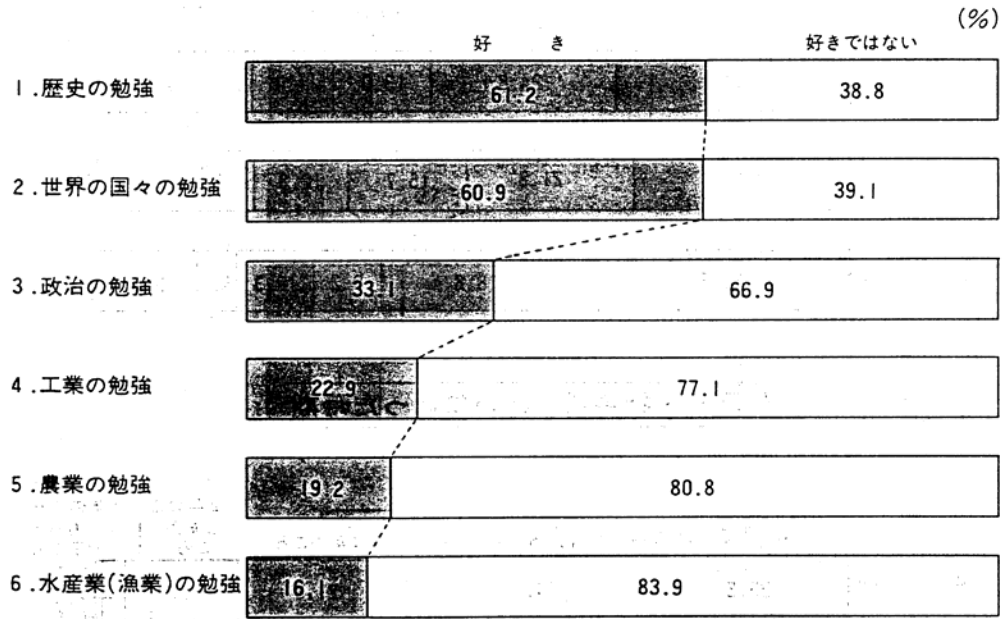
歴史が好き

人気の点において、相対的には地盤沈下をきたしていることを承知した上で、それではもう少し細かく、社会科の中でどんな領域を子どもたちが好んでいるか探ってみよう。

つぎの図3をごらんいただきたい。上位から「歴史」「世界の国々」の順で並び、「好

き」という子どもの割合は6割に達する。6年生の2月という調査時期から、ついこの間まで学んでいた歴史が第1位に上がるという事情もわかるが、他領域では気づきにくいドラマ性を歴史の勉強の中にした結果であろう。

図3・社会科で好きな勉強



大事な5、6年生

つぎに、時間をさかのぼって入学以来6年間の好き嫌いを、図4と図5をもとにして確かめてみよう。

図からわかるように、5年生以後に社会科が好きになった子どもが56%、逆に嫌いになった子どもが60%もある。5、6年生の学習

が、好き嫌いの分化の速度を速める結果になっていると考えられよう。子どもたちにとって、社会科の勉強は、中学校、高校へと舞台を変えて継続するのである。好き、嫌いという単なる感情の問題だと片づけられない重みを、この時期の学習が担っているのである。

図4・社会科が好きになった時期

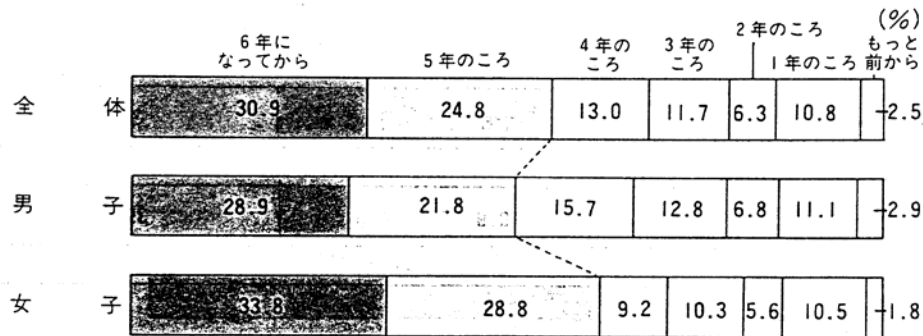
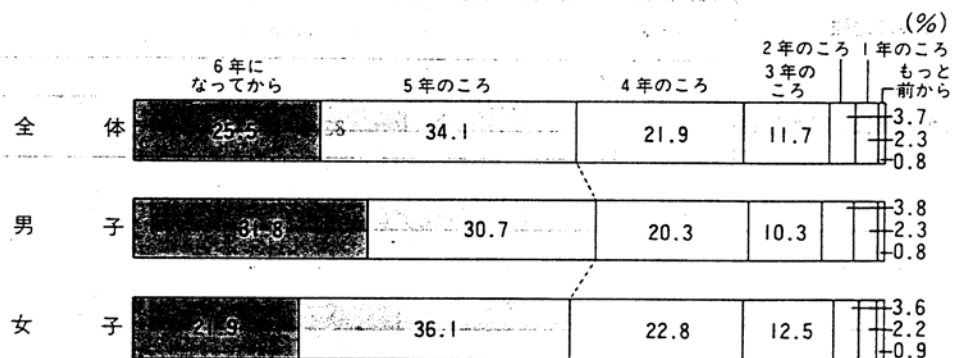


図5・社会科が嫌いになった時期



社会科が嫌いな理由

それでは、子どもたちの好き嫌いはどんな理由によるものでしょうか。図6と図7に、その理由をたずねた結果を掲げてある。

社会科が嫌いな理由の第1位は「よくわからないから」で、5割の子どもが支持し、つ

いで「楽しくない」が3割という結果であった。図7で、好きな理由の第1位が「楽しい」であることを考えると、「楽しく、よくわかる」社会科ならば好きになれるのだと、子どもたちの対応は、きわめて明瞭である。

図6・社会科が嫌いな理由

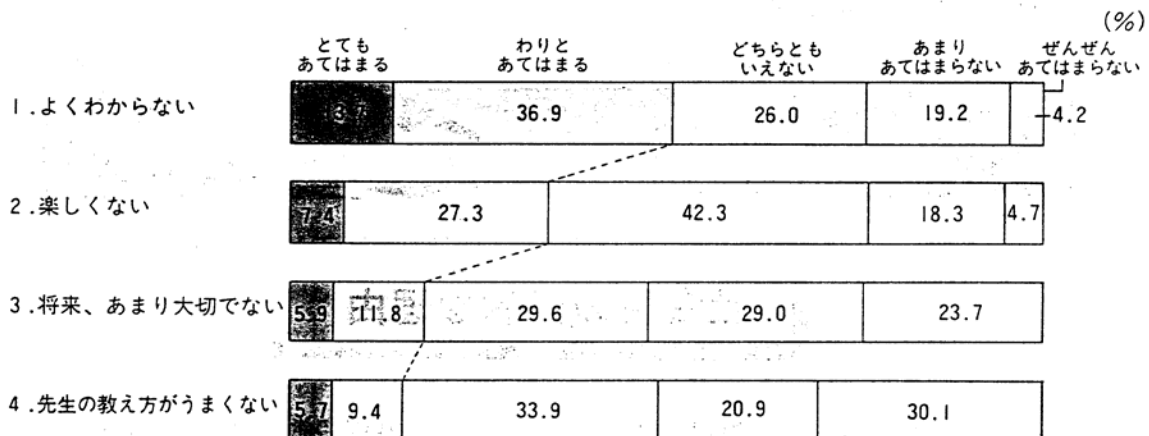
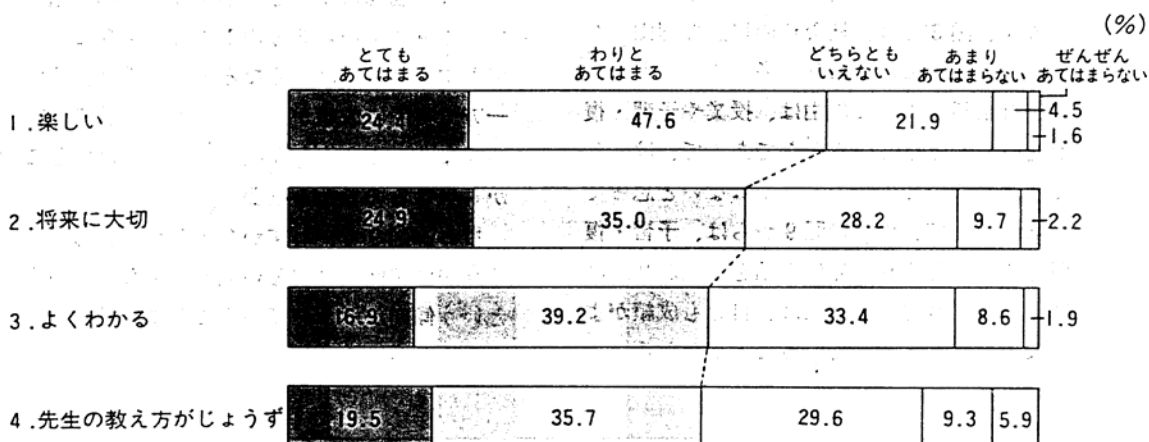


図7・社会科が好きな理由



2. 社会科学習の実際



社会科学の得意な理由

ここまでの考察は、好き、嫌いという意識を軸に進めてきた。つぎに、一步進んで、子どもたちが学習に向かうときに、社会科学という教科のもつ重みをどの程度感じているかという問題について、調べてみることにしよう。

まず、図8では、社会科学の得意な理由をたずねた結果を掲げてある。多くの子どもたちは、社会科学が得意な理由は、授業や予習・復習をきちんとしているからであって、けっして生まれつきの頭のよさではないと思っている。そして、つぎの図9からは、予習・復習をきちんとやり、先生の話をしっかり聞けば、つまり努力さえすれば、自分も成績がよくなるだろうと考えていることがわかる。

生まれつきの能力不足を嘆くより、具体的な対応が可能な「努力」に原因を求める姿勢のほうが、はるかに健全だと言えよう。しかし、現実問題として、成績が良かったという子は、図10によると、小学校の全体を通じて、4分の1から3分の1程度にすぎない。努力すれば成績は良くなると思う子と、その一方で実際に成績が良かったという子の割合の少なさ。この大きな開きは、いったいどこから生じるのであろうか。

なお、図9で、わずかな差ながら、男子のほうが成績向上に明るい見通しをもっているという傾向が示されていることにも目を留めておきたい。

図8・社会科の得意な理由

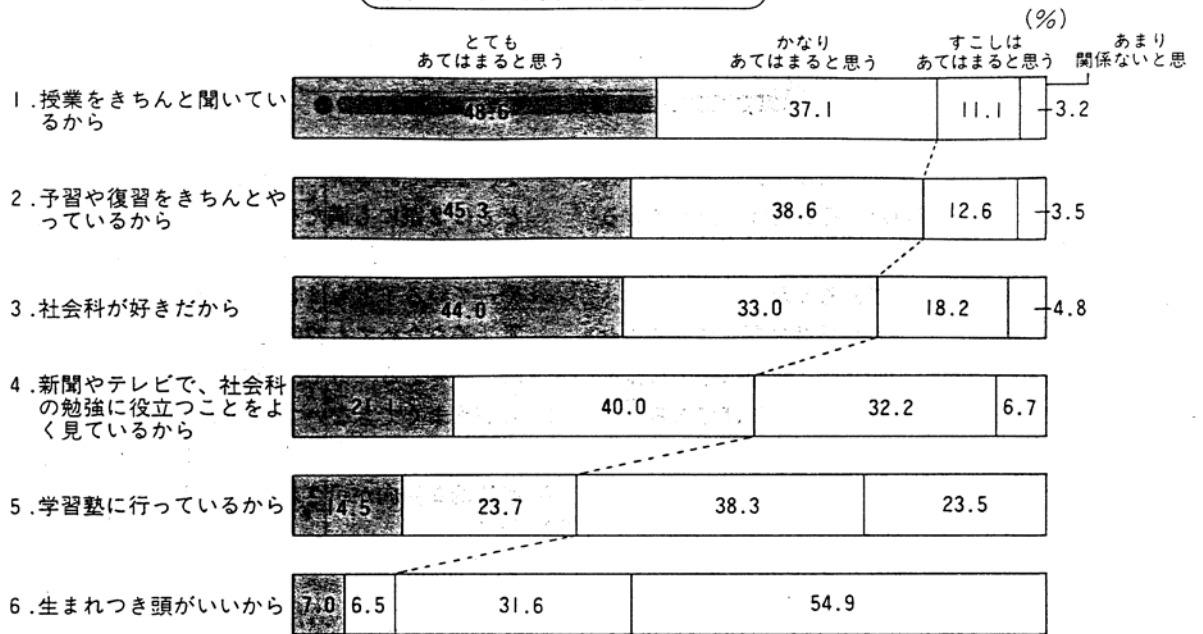


図9・社会科の学習法と成績(男子と女子)

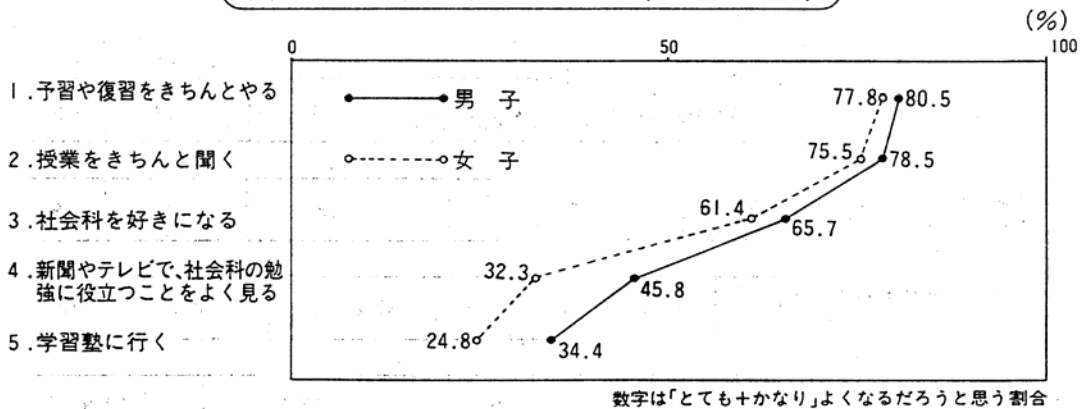
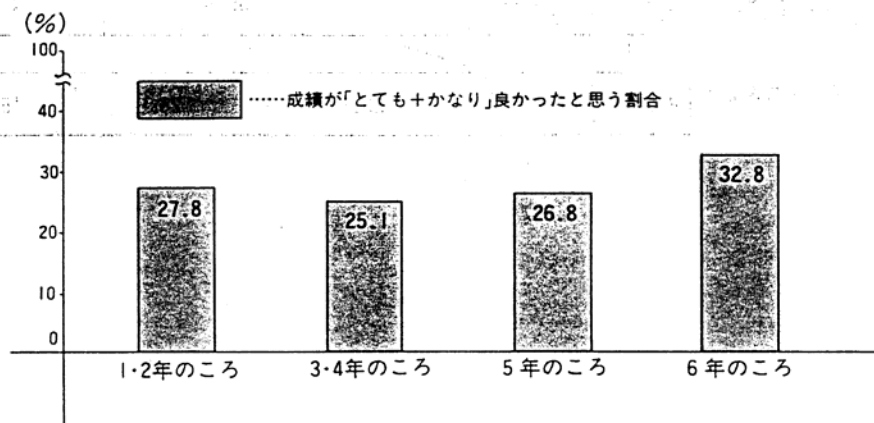


図10・社会科の成績



社会科の勉強の仕方

努力すれば、ある程度は社会科の成績が良くなると考えていた。それでは、そう考える子どもたちが、実際には、どのような勉強ぶりをみせているのであろうか。

図11には、社会科の勉強に関して考えられる6つの方法について、実際にはどの程度やっているかをたずねた結果を掲げてある。これによると、「資料や事典を使って調べる」「テレビや新聞のニュースに関心をもつ」が

1、2位であるが、「とてもあてはまる」子どもは2割にも満たない。あれほど予習や復習が大切だと思っけていても、実際にきちんとやっている子どもは8%、「わりとやっている」子を含めても27%である。努力しさえすればと考える一方で、子どもたちは、その努力がうまくできないようである。そしてここでもまた、女子のほうに、男子よりも悲観的な傾向が示されている(図12)。

図11・社会科の学習態度

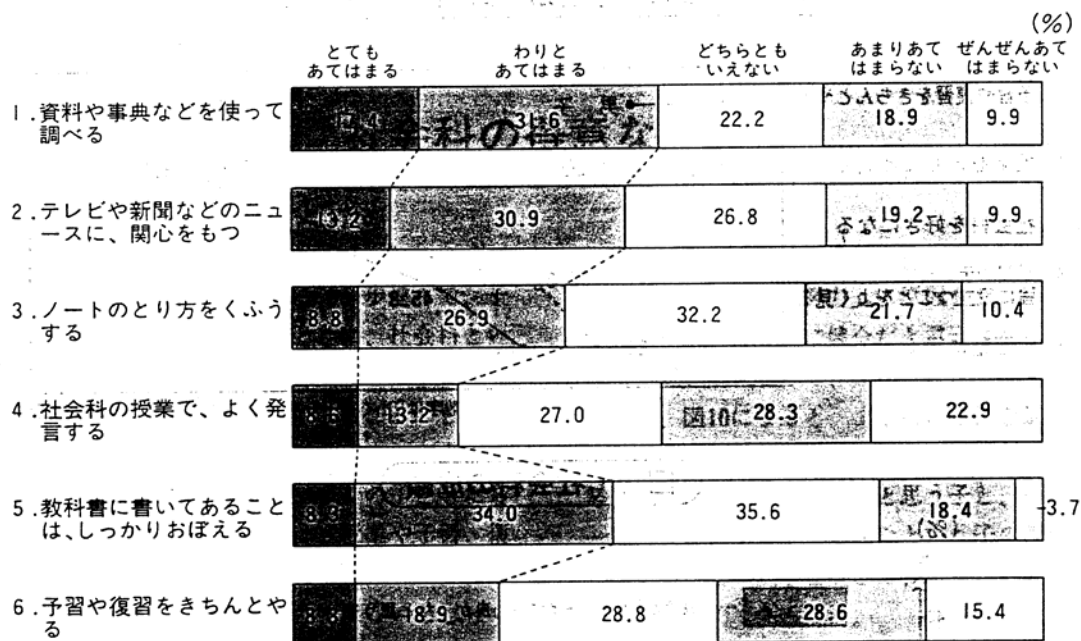
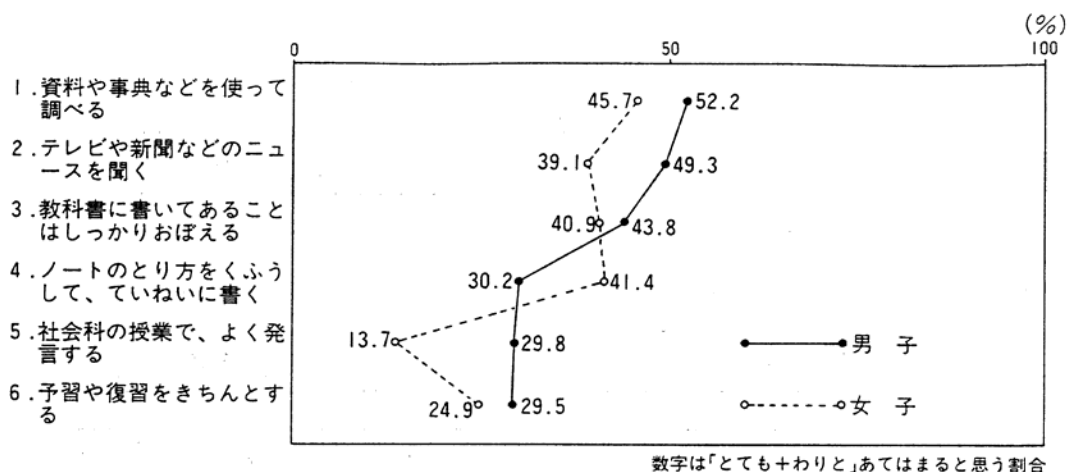


図12・社会科の学習態度(男子と女子)



日常生活の中での取り組み

社会科の勉強をもう少し広義にとらえてみよう。社会科そのものは、社会事象一般を素材とする教科であるから、教室や机の上での勉強だけでなく、社会的事象を刺激として、自分の目・耳・手・足を通して得たものも重要な意味をもつはずである。そこで、授業中の子どもたちの姿を追う前に、授業外での学習のようすについて調べてみよう。その結果が図13である。

ここでは、いわゆる「生きた勉強」を意味する10項目についてたずね、その実行率の高い順に並べてある。残念なことに、いずれの項目も「よくしている(できるだけそうして

いる)」割合が小さいことを読みとらざるを得ない。6年生ともなれば、日常の習慣になってもよさそうな「新聞を読む」でさえ、22%という実態である。

つぎに、ごく日常の生活の中で、勉強に役立つ情報の入手源としてのテレビの利用について調べてみよう。その結果は、図14にまとめてある。ここでは、「定時ニュース」から「日本の産業紹介」までの10項目をとりあげてみたが、その視聴率は、全体を通じて決して高くない。そして、図15、16からわかるように、やはり、女子が社会科を敬遠しているようでもある。

図13・授業外学習

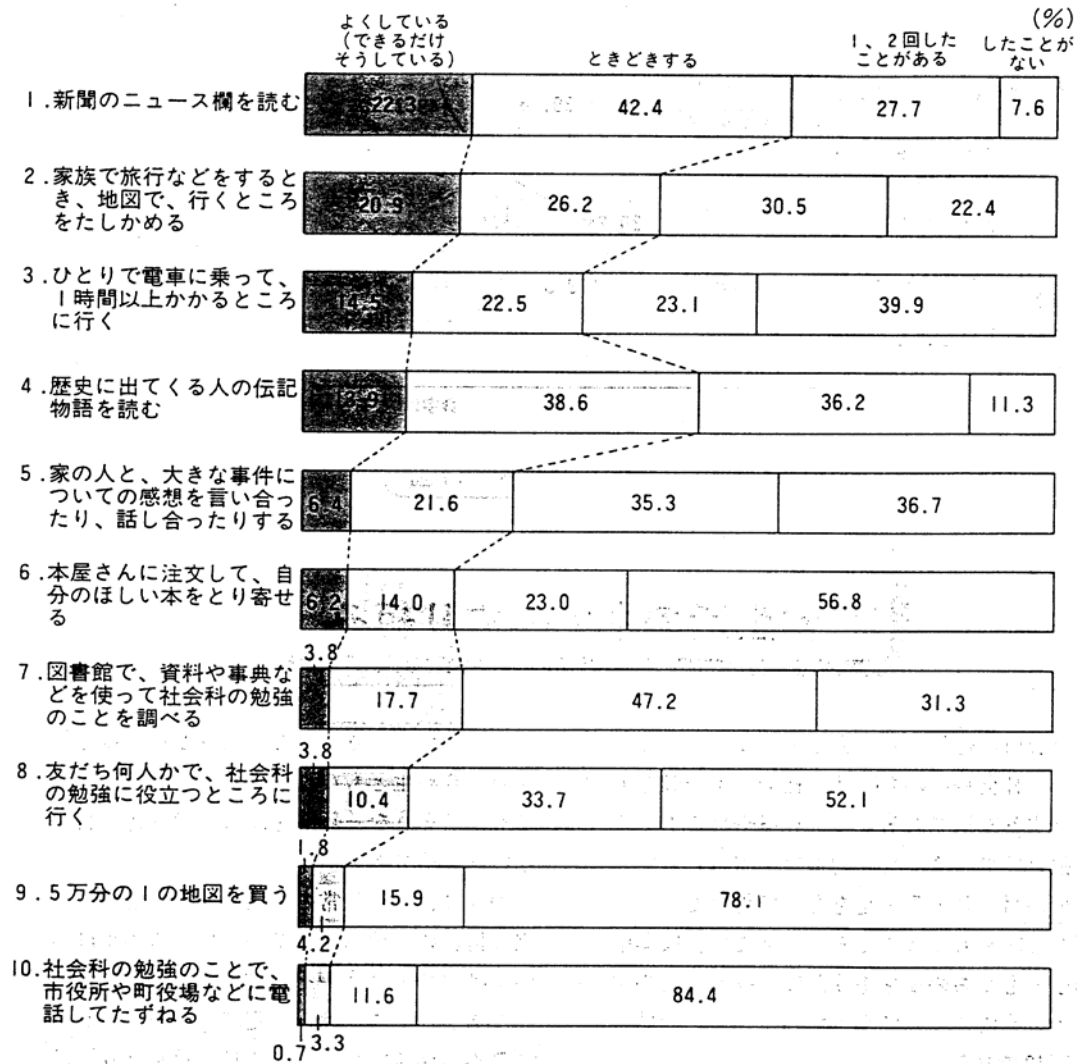


図14・社会科に関するテレビ視聴

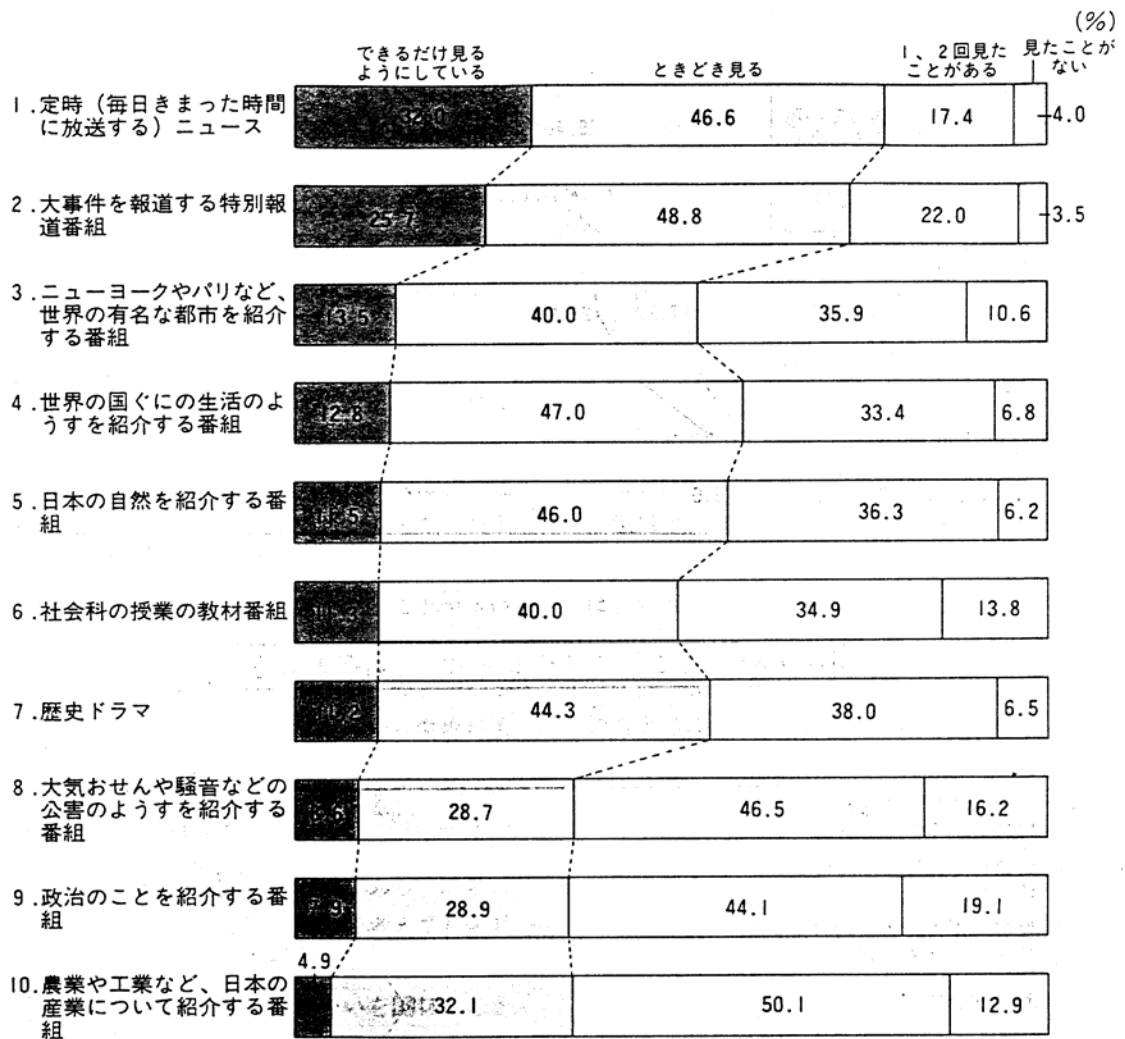


図15・授業外学習(男子と女子)

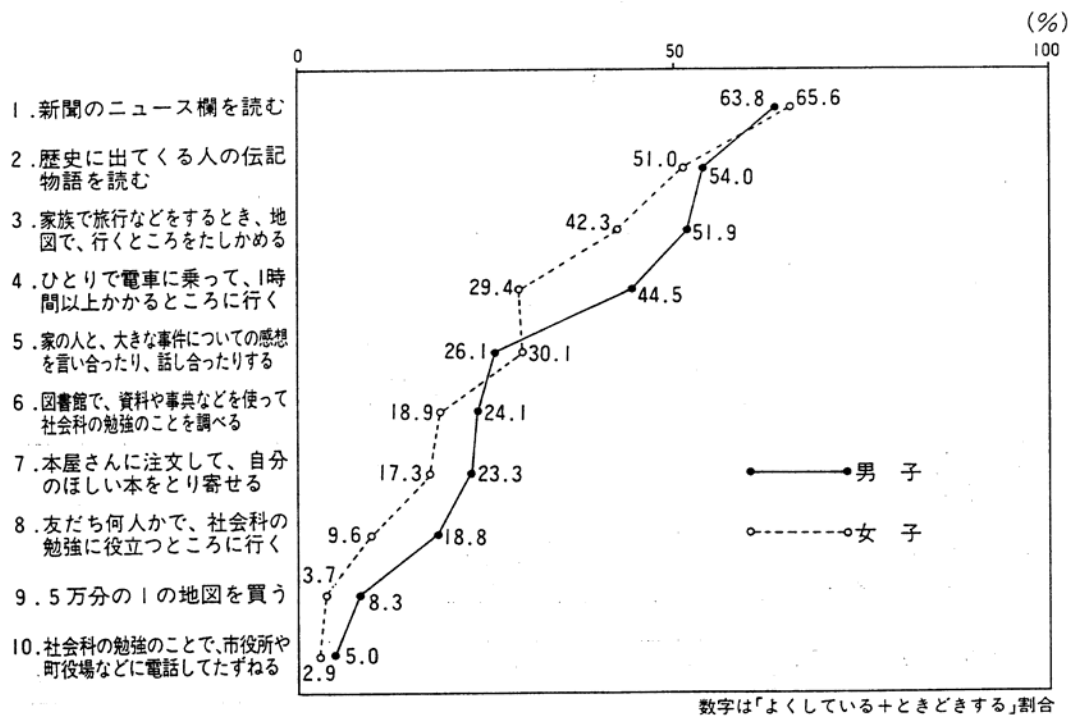
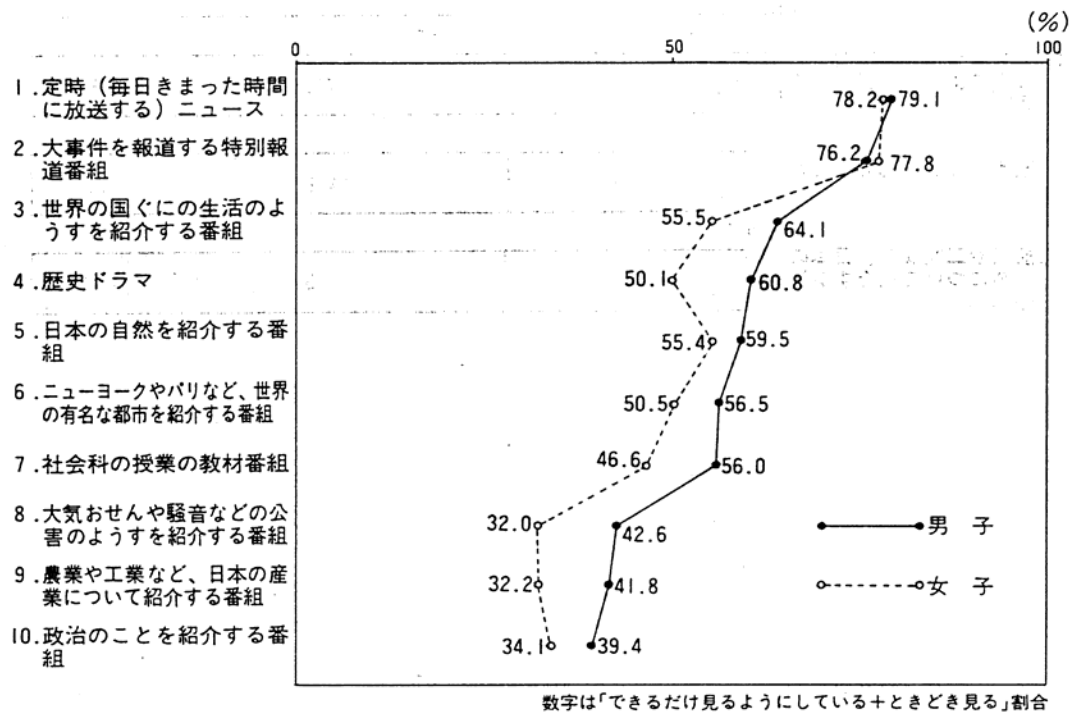


図16・社会科に関するテレビ視聴(男子と女子)



授業中の気持ち

ふたたび、授業場面に話をもどしてみよう。ここまでで紹介したデータでは、今より成績を上げるためには努力をすればいいのだが、その努力がなかなかうまくできないという子どもの姿が浮かんできた。それでは、そうした子どもたちは、今、どんな気持ちで授業を受けているのだろうか。しばらく、授業を受けているときの心理状態を探ってみることにする。

図17は、授業中の気持ちとして明暗5項目ずつ、合計10項目について、どのくらい経験しているかをたずねた結果である。図からわかるように、第1位は、「ほかの人はよく発表できていいな」、続いて「なんとなくつまらない」「むずかしくてよくわからない」など、マイナスの気持ちに包まれることが多いようである。そして、逆に「先生にほめられた」「授業のあと自分で調べた」など、子どもたちが学習に意欲的になっていくための条件は、「ぜんぜんなかった」とする子どもが、3割から4割にもものぼるのである。

これらの数値は、社会科の全体からくるイメージがもとになっているのであろうから、もう少し具体的な場面に即して考えてみる必要もあろう。そこで、具体的な勉強の仕方による子どもたちの歓迎の度合いを図18で確かめてみよう。子どもたちは、「見学」を最も好み、ついで「テレビやスライド・OHPを使った授業」となる。ここに、教師の工夫しだいでは、事態を好転させ得る可能性を感じることができるが、予測どおり最下位に位置した「教科書どおり進んでいく」授業が、現実には多く、それが子どもたちに不人気という結果となっていることが想像できよう。

もちろん、子どものみならず教師も、楽し

くわかる授業を望んでいるのである。しかし、一方には、指導すべき内容が明示され、しかも限られた時間の中でそれをこなさねばならないという制約の中で、そして片方では、一定程度の理解のレベルを保たねばならないという事情の中で、教師もまた悩んでいるはずである。学校現場の、そして個々の教師の努力による可能性を見きわめた上で、総合的な立場からの検討が必要とされる時期にきているように思われる。

さて、これまでも何度かふれてきたが、性差について、もう一度データにあたっておくことにしよう。

図19は、前に紹介した図17の内容を性別に示したものである。男子が女子を上回る項目は、すべて授業にある程度満足し、意欲的に取り組んでいるようすを示すものである。そして「つまらない」「よくわからない」など、これまでにみてきたデータを裏づける項目でのみ女子が男子を上回る。女子の社会科離れをくいとめる方策もまた、待たれるのである。

いずれにしても、子どもたちの学習ぶりからは、いくつもの問題が発見された。その多くは、現在実際に行われている授業に原因を求めることができようが、ここで、子どもたち自身の問題克服の可能性を探っておくことにする。図20をごらんいただきたい。

授業でわからないことがあったとき、「自分で教科書や参考書を調べる」子どもは、「ときどきある」まで含めて5割に達する。さすがに6年生ともなれば、という印象を受けるが、「そのままにしておく」ことが「ぜんぜんない」子どもは27%。わからないことに対する対応のちがいが何によるものか、次章以後でくわしく分析することにしたい。

図17・社会科の授業中の気持ち

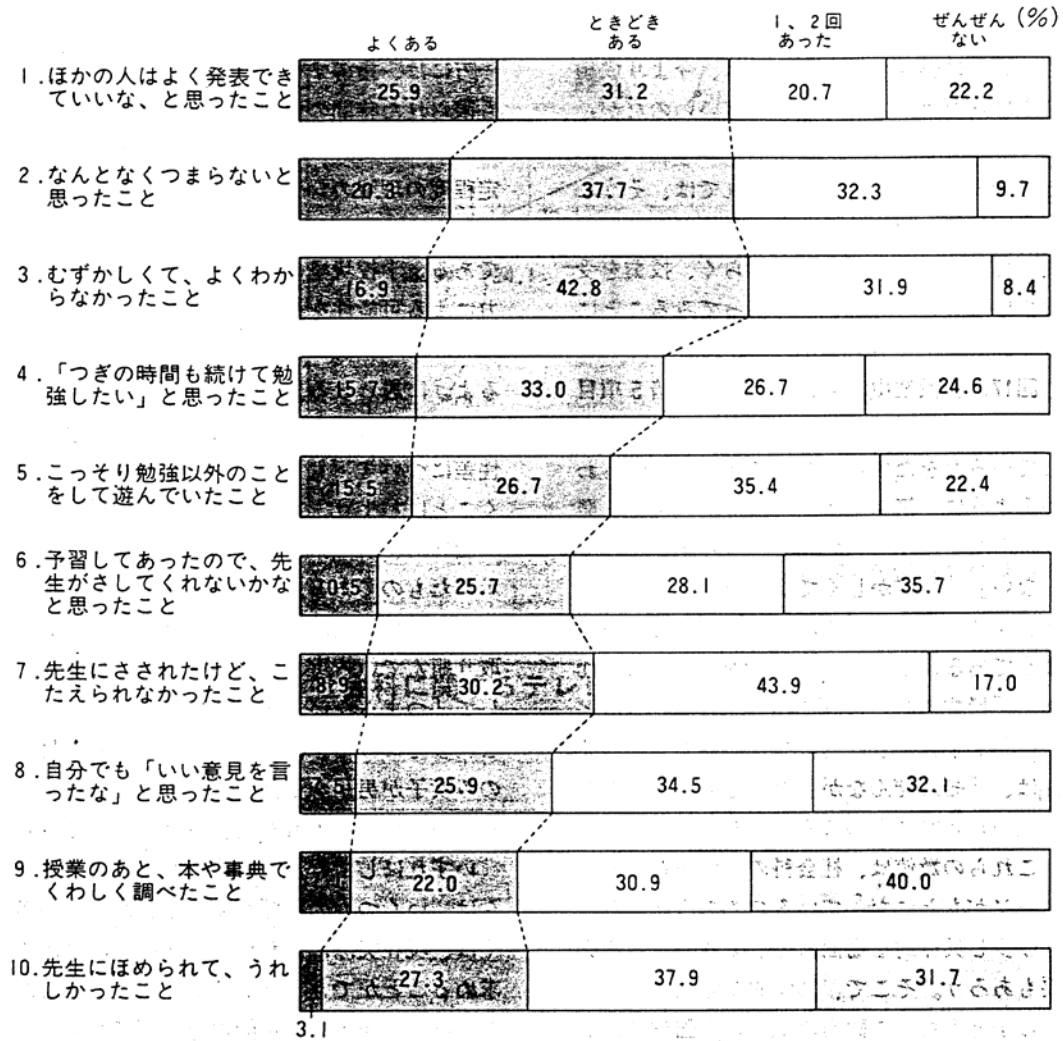


図18・好きな社会科の授業

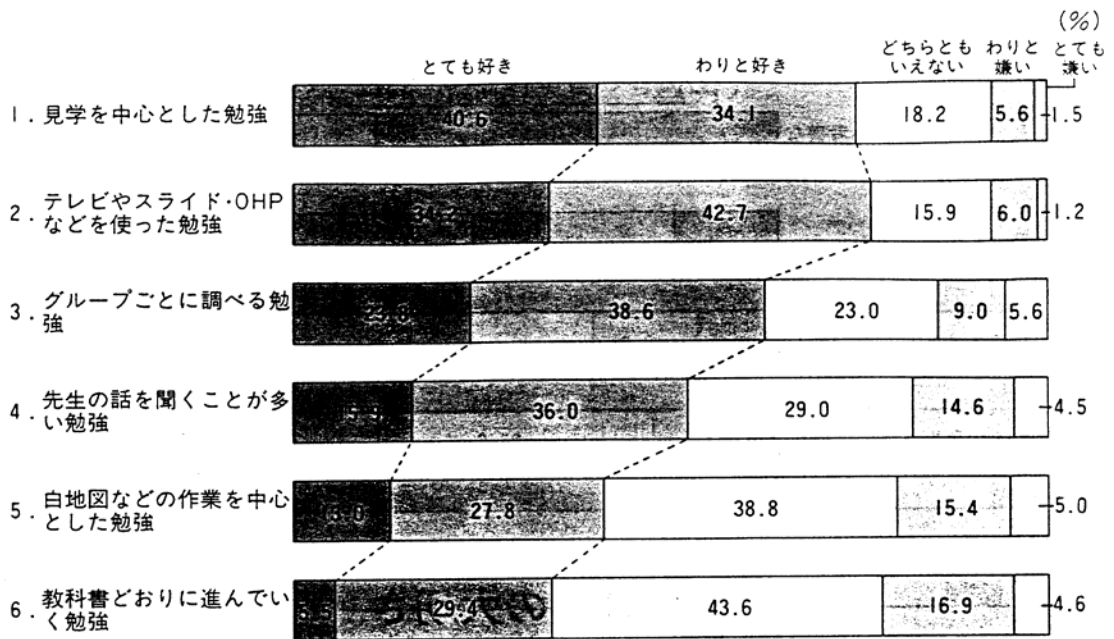
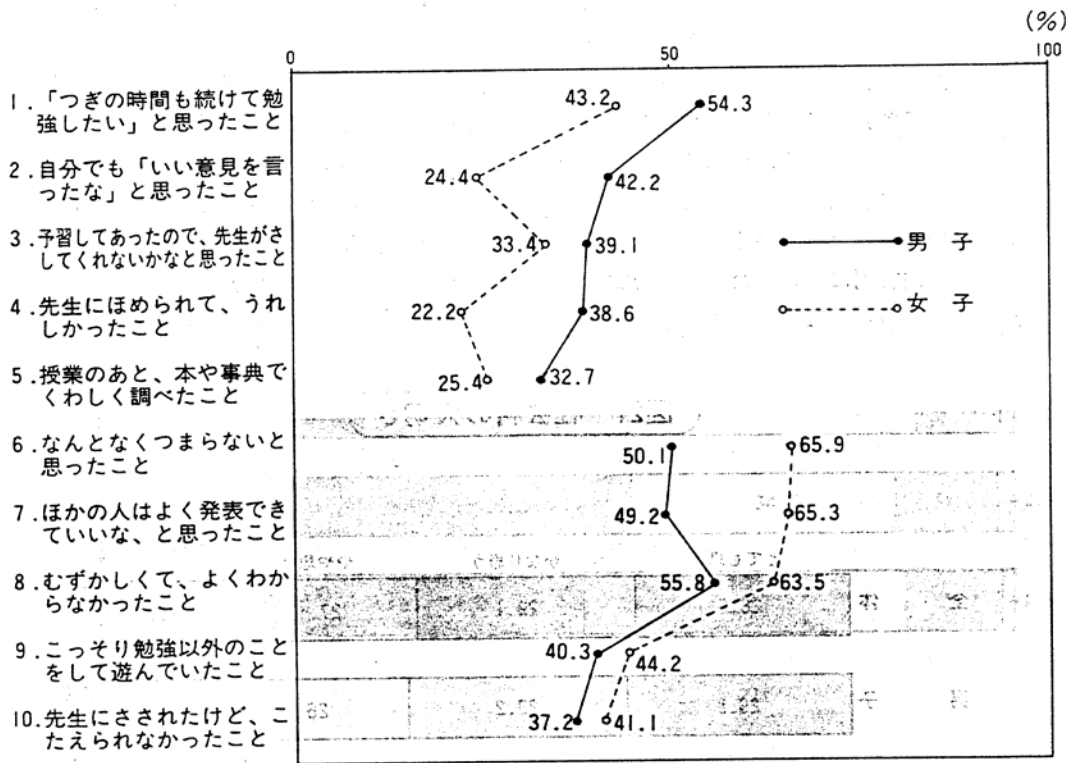
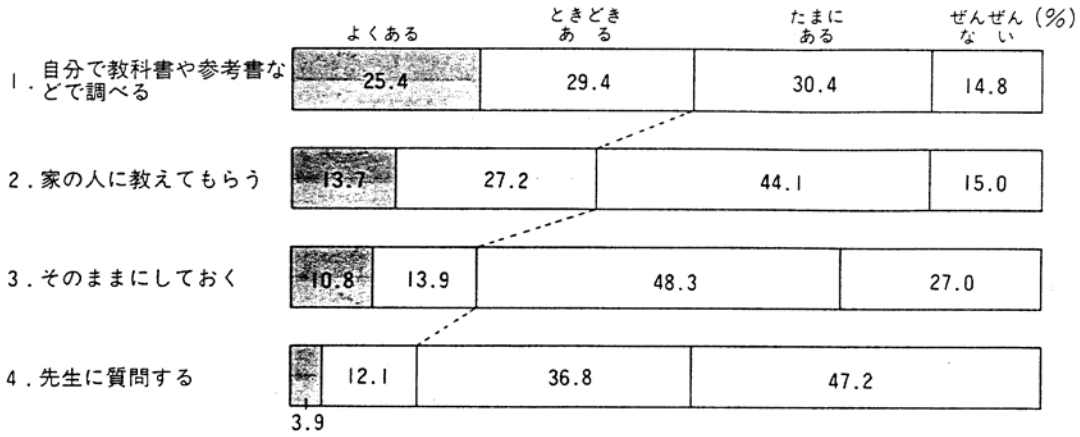


図19・社会科の授業中の気持ち(男子と女子)



数字は「よく+ときどき」あると思う割合

図20・社会科の授業がわからなかった時



将来への大切さ

少し角度を変えて、子どもたちが、今学んでいる社会科が、自分の将来にどのくらい大切だと考えているか探ってみることにする。

まず、図21は、将来のために、今どのくらい力を入れて勉強しておかなければならないと考えているかをとらえた結果である。図からわかるように、大半の子どもたちは、今がんばる必要があるとみている。

そして、内容別にとらえたつぎの図22では、「政治のしくみをおぼえる」ことを筆頭に、

どの項目もそれなりに役立つと思っているようである。だからこそ、つぎの図23に示されているように、中学生になっても「授業をしっかり受け、予習・復習をきちんとする」ことを努力目標として掲げるのであろう。彼らが掲げる努力の方向には多少疑問が残るとしても、小学校の卒業を目前に控えた6年生の胸の中に、こうした思いが確かにあることを大切にしたいものだと思う。

図21・社会科の大切さ

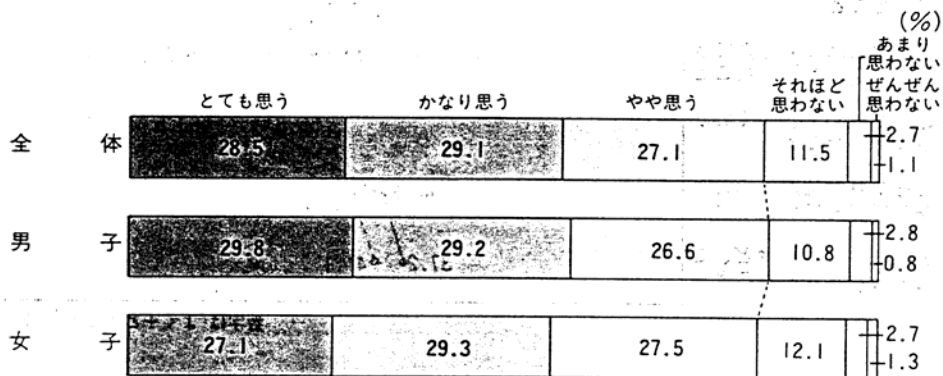


図22・社会科学習の有効性

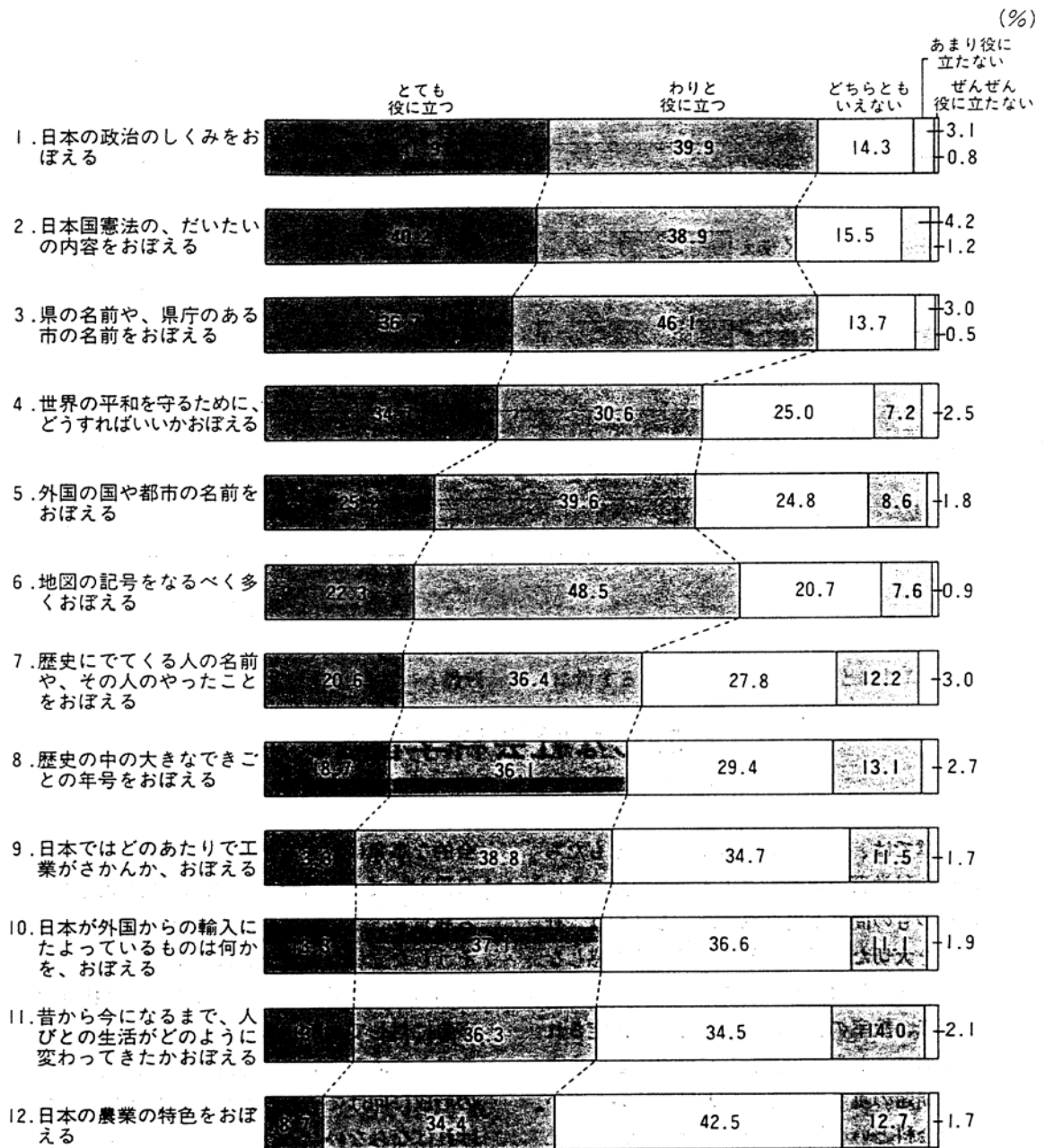
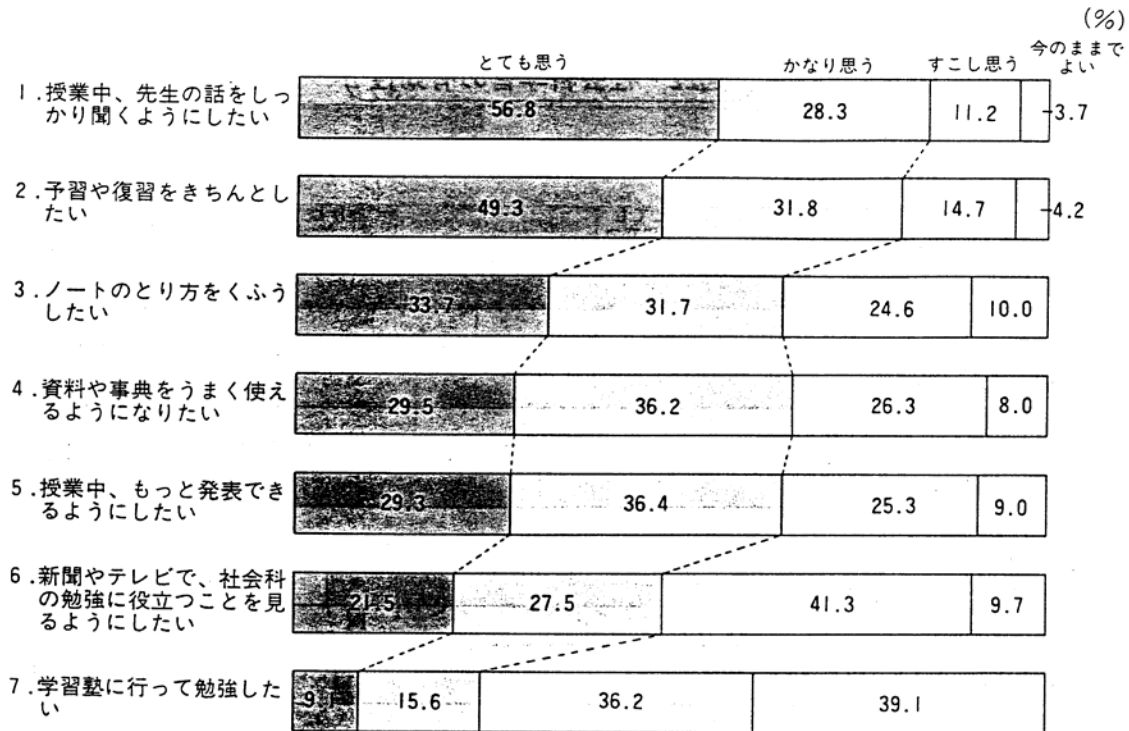


図23・中学校での社会科学習の努力目標

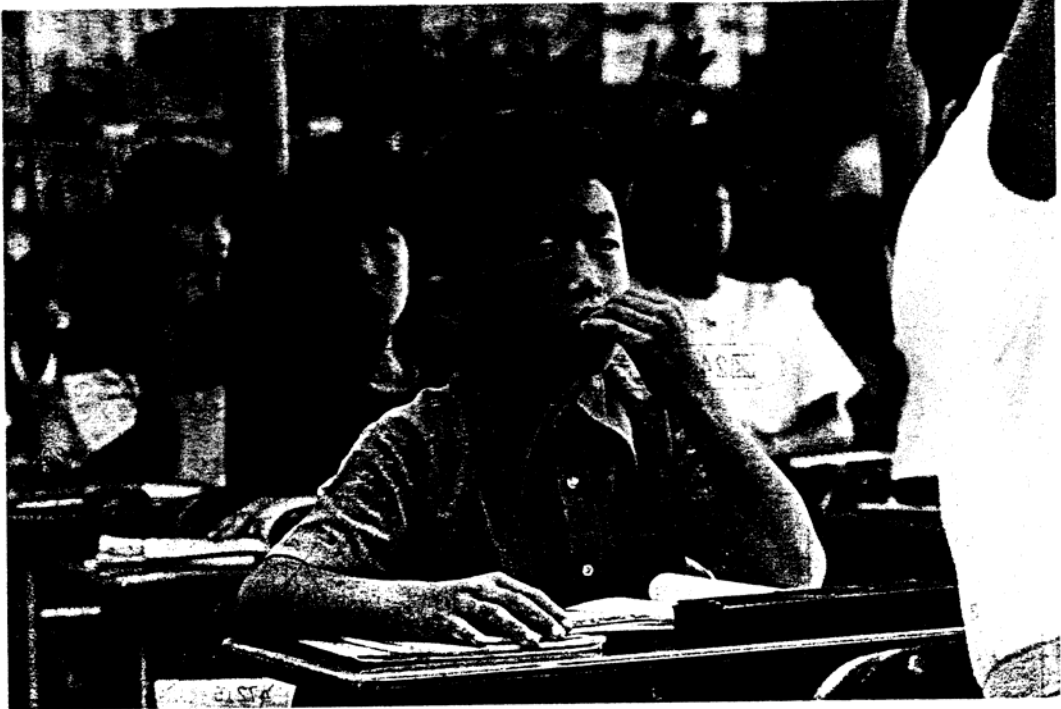


こんな社会科学習を

本章では、いくつかの角度から子どもたちの社会科学習の実際をみてきたが、その中にいくつもの問題が発見された。とりわけ、社会科を大切だと思ひ、努力の必要性を感じながら、その努力がうまくできないという点、そして、教室の、しかも授業という限定された場面でしか学習が進行していないという点に、問題の重さを感じないわけにはいかない。社会科という教科が誕生した背景には、社

会的な事象に対する確かな判断力をそなえ、公民としての資質を自らの内側に再生産できる教育を、という要請があったはずである。そうした立場から考えれば、単なる知識や技能の習得に終始するのではなく、常に社会的事象に対して興味・関心を抱きながら問題意識を深めるといふ社会科固有の学習態度の形成に向けて、われわれの努力はなされなければならないだろう。

3. 成績と学力観



ここまでは、主として単純集計によって得られたデータに基づいて、社会科という教科をめぐる子どもたちの意識と行動の実際を明らかにしてきた。しかし、その意識や行動の多くは、成績によって左右されていることが

十分に予想される。本章では、社会科の成績に対する自己評価の結果をもとにしたクロス集計を試み、子どもたちの抱く学力観に一步踏みこんでみたい。

成績と勉強に向かう気持ち

まず、図24は、素朴に成績と好き嫌いとの関係をみたものである。結果は、きわめて自然に、成績の「とても良い」子どもたちは、9割が「社会科が好き」とこたえており、成績は「とても悪い」がそれでも「好き」だという子どもは2割にすぎない。成績の良し悪しとその教科の好き嫌いを決定するのは当然のこととしても、ここで注目されるのは、1、2年生ごろは、現在の成績の良し悪しとは無関係に、だれもが好きだったと回想している

点である。グラフの形を細かくみていけば、今、成績が悪く社会科が嫌いだという子どもたちのほうが、むしろ低学年のころは好きだったのにとこたえる割合が高いという事実すら見うけられる。当時、彼らがほんとうに好きであったという確証はない。得てして回想という作用は多分に自らの過去を美化する傾向にあるものだが、それだけになおさら、ここまでのプロセスのどこかに誤算があったのではないか、こんなはずではなかった、と嘆

く一群の子どもたちが痛々しい。

そして、図25に示したように、成績の良し悪しは、授業中の心理状態をも、明と暗の両方に明確に分類してしまう。成績の「とても良い」子どもは、7割が「もっと続けて勉強したい」と思うのに対して、「とても悪い」子どもの9割ちかくは、「むずかしくてよくわからない」と嘆く。「とても良い」子どもの

ちょうど5割は、「先生にはめられてうれしかった」という経験がある一方で、「とても悪い」子どもでそうした経験をもつ子どもは1割に満たない。結果よりプロセスが大切だという良心的な教師たちの主張も空しく響き、成績至上主義に裏打ちされた悲しい現実が顔をのぞかせている。

図24・好き嫌い×成績の自己評価

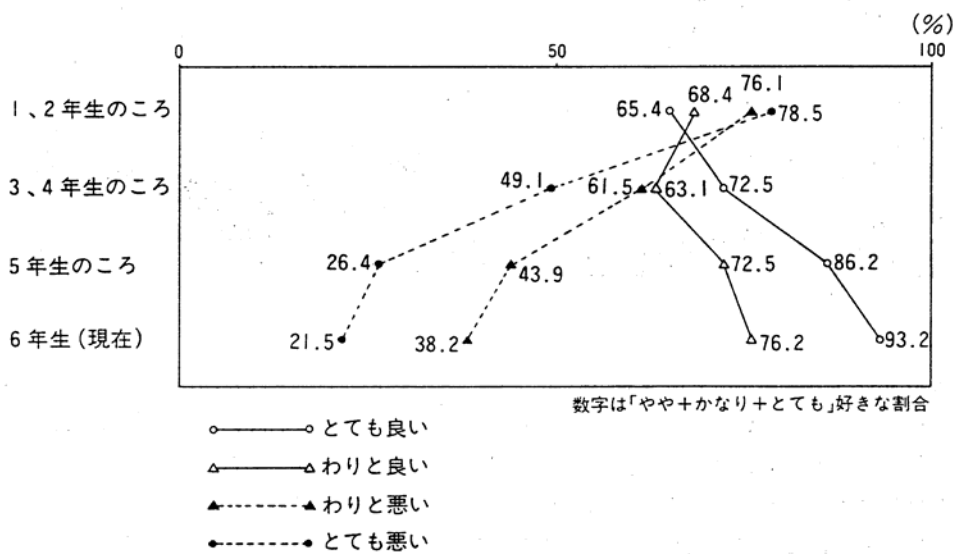
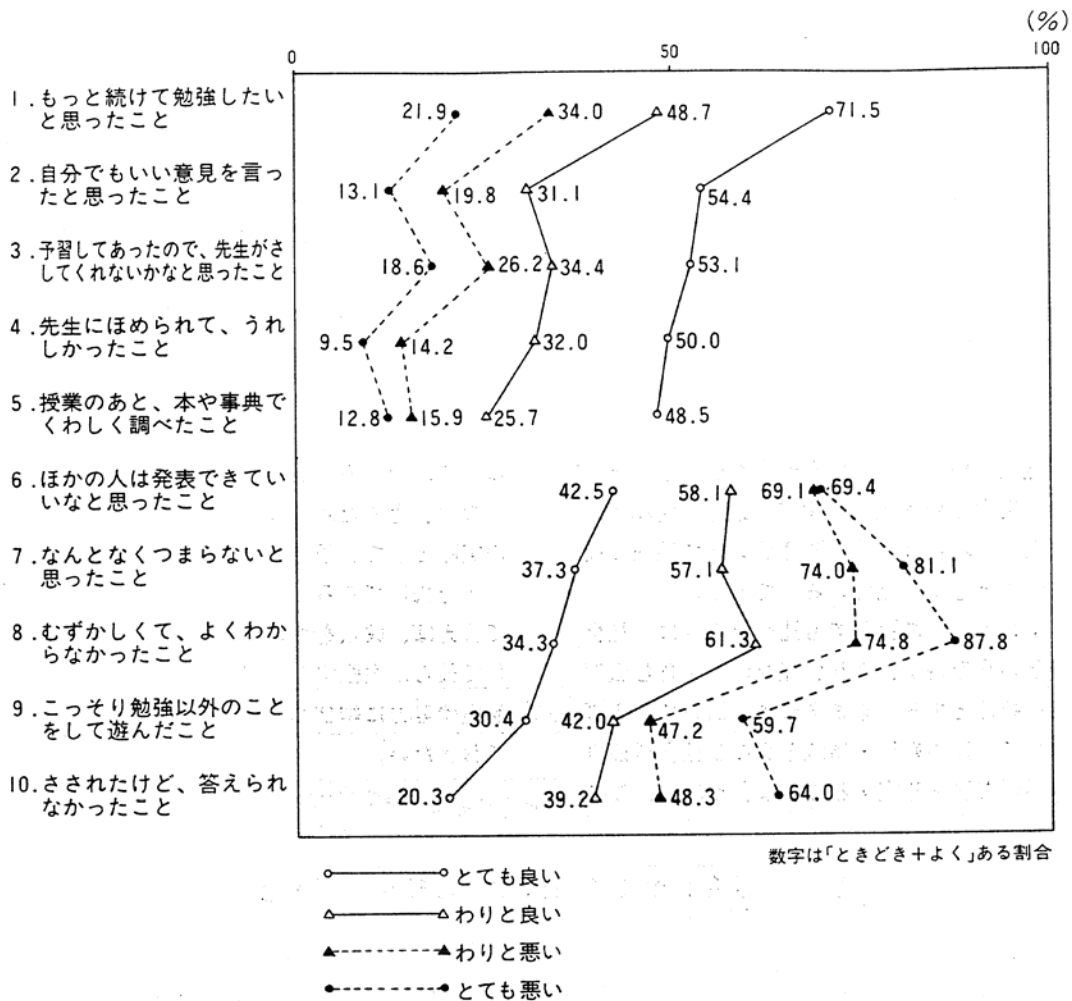


図25・授業中の気持ち×成績の自己評価



子どもたちの学力観

そうした冷徹な現実への対応が急がれるが、その背景となる子どもたちの学力観に、少しだけ目を向けてみよう。

表1は、第2章で紹介した図8を、成績とのクロスで見直した結果である。社会科の成績が良い理由として、子どもたちは、最も大きなものは「授業をきちんと聞いているから」だというように、表に掲げた順に肯定するが、成績の良し悪しによって、その肯定率は微妙に異なる。

特徴的な層は自らを「とても悪い」と評価する子どもたちで、上位4項目の肯定率は、他の層の子どもたちに比べて最も低い。そして、相対的にはあるが、下位2項目、すなわち「学習塾」や「生まれつきの頭のよさ」といった外的要因に、自らの成績がふるわない理由を求めようとする傾向がある。そして、この層を除いた「わりと悪い」から「とても良い」までの3グループで比較すると、成績下位の子どもほど、「予習・復習」といった

日常的な努力の結果を重視し、上位の子どもは、「好きで興味や関心をもっているからだ」と考える。さらに、塾の効用ではけっしてないと、上位の子どもたちはこたえる。

以上、成績の良い理由として、下位の子どもは着実な努力の積み上げを、上位の子どもは興味や関心の問題だと意見が分かれる実情を読み取ったところで、それでは具体的にどうしたら自分の成績が上がると考えているか、追求の歩を進めてみよう。

図26にその結果を掲げてある。まず、全体として、上位の子どもほど各項目の肯定率が高い。言いかえれば、今後さらに伸びていく可能性を信じている傾向がうかがえる。そして、用意した4項目の中で、最も肯定率の差が大きい項目は、「新聞やテレビで勉強に役立つことをよく見ている」である。

本レポートの冒頭でも述べたように、社会科という教科が、より広範な内容を含む広領域を特性とする点をまず念頭に置いて考える。そして、他の教科・領域と異なる社会科独自の学習方法を想定するならば、やはり、この

社会的な事象への興味や関心に基づいた広義の学習ということになろう。考えてみれば、社会科という教科の設置の目的そのものが、実はその一点に焦点があてられていて、社会的事象に対する確かな判断力の養成や態度の形成をねらっていることに、今さらながら気づかされるのである。そうした視点から、これまでのデータを読み直すならば、成績の上位の子どもたちが抱く社会科の学力観が、ほぼ妥当な線にあるとも考えられる。そして、下位の子どもたちの学力観の変更にに向けて教師が努力するという方向に、成績至上主義を覆す、かすかな可能性を見いだすことができるのではなかろうか。

なお、念のため、表2に広義の社会科学学習の実際として、子どもたちのテレビ視聴のようすを掲げてある。上位の子どもたちに限って言えば、成績をさらに上げるための方法として彼らが主張する内容が、このデータから現実の努力に結びついていることを読みとっておきたい。

表1・社会科ができる理由×成績の自己評価

(%)

社会科ができる理由	成績の自己評価			
	とても悪い	わりと悪い	わりと良い	とても良い
1. 授業をきちんと聞いているから	80.9	87.6	84.9	87.2
2. 予習・復習をきちんとやっているから	81.7	87.1	84.0	82.7
3. 社会科が好きだから	71.2	74.8	75.7	82.4
4. 新聞やテレビで勉強に役立つことをよく見ているから	53.3	54.8	61.2	68.7
5. 学習塾に行っているから	41.5	42.3	38.5	34.0
6. 生まれつき頭がいいから	14.4	14.1	14.0	12.1

数字は「かなり+とても」あてはまるとする割合

○印は最大値、~~~~印は最小値

図26・成績を上げる方法×成績の自己評価

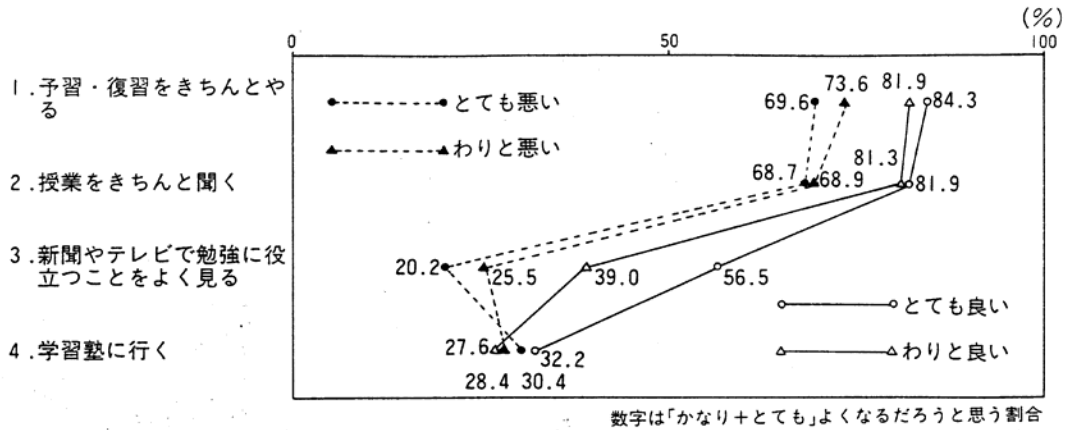
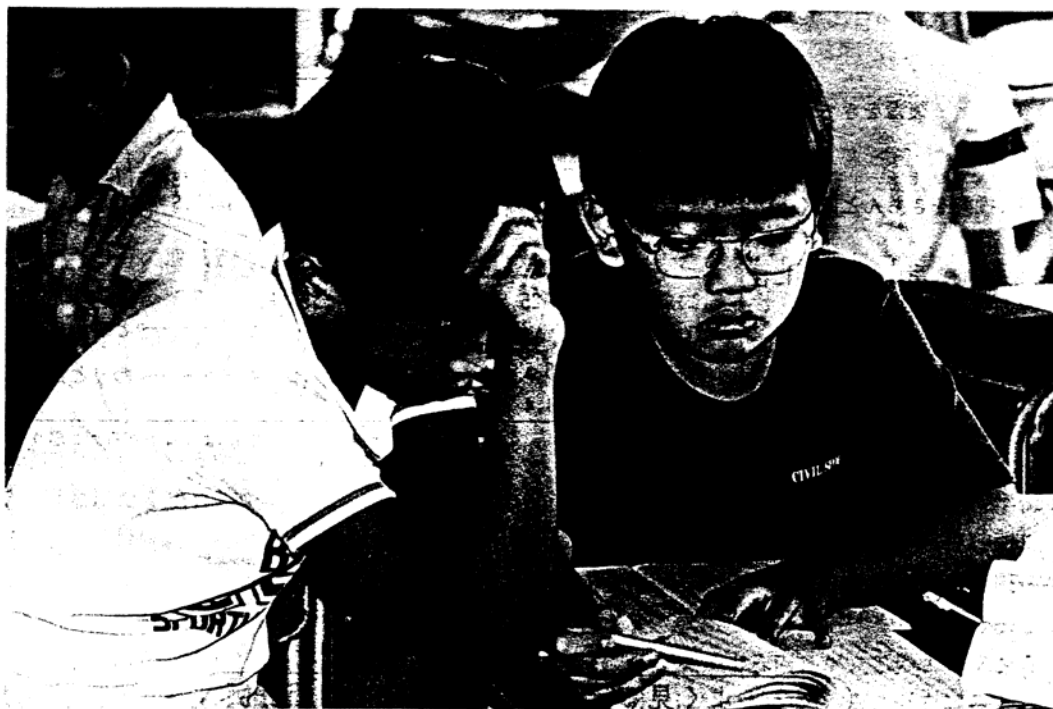


表2・よく見るテレビ番組×成績の自己評価

テレビ番組	成績の自己評価 (%)			
	とても悪い	わりと悪い	わりと良い	とても良い
1. 定時ニュース	67.4	< 76.5	75.9	< 88.2
2. 大事件の特別報道番組	63.7	< 69.2	< 76.4	81.3
3. 外国の生活を紹介する番組	46.5	< 53.3	< 60.3	< 70.3
4. 日本の自然を紹介する番組	45.5	< 53.3	57.2	< 66.5
5. 歴史ドラマ	46.6	46.4	< 56.0	< 65.2
6. 教材番組	37.4	< 44.1	< 53.4	< 60.8
7. 公害のよけずを紹介する番組	47.5	48.8	53.6	< 59.7
8. 政治に関する番組	24.5	28.0	< 34.5	< 50.3
9. 日本の産業を紹介する番組	26.4	28.4	< 36.9	< 47.9
10. 世界の有名な都市を紹介する番組	29.3	29.6	< 36.7	< 47.1

数字は「ときどき+できるだけ」見るようにしている割合 (不符号は、5%を単位とした差を表す)

4. 社会科における学習タイプ



社会科の授業の中で子どもたちの学習ぶりを観察すると、いくつかのタイプがあることに気づく。6年生になって歴史の学習が始まったとたん目を見張らす子ども、たいへんな博識でしばしば教師をあわてさせる子ども、白地図の宿題にあざやかな彩色をほどこしてくる子ども、電話や図書館などをじょうずに利用して必要な資料を入手するのが得意な子、そして大事なことは聞きもらすまいとていねいにノートする子ども。

本章では、社会科学学習をめぐる問題への具体的な対応の方向を探るために、そうしたそれぞれの学習タイプがいかなる意味をもつかを明らかにして、本レポートのまとめとした。

そのために、表3に示したような方法により、さまざまなタイプを4つに分類すること

にした。その手順を整理しておく。

1. まず、子どもたちの学習ぶりを静的・動的の2つに大別し、表中に示したようなそれぞれを代表する3項目ずつを用意した(A群、B群とする)。
2. 6項目のそれぞれに、「ぜんぜんあてはまらない」から「とてもあてはまる」までの5段階で回答を求め、その数値をそれぞれの子どもの得点とした。
3. A群、B群の3項目ずつを別々に加算し、それぞれA得点、B得点とした。
4. このA・Bそれぞれの得点を基準として、表のように分類し、その高低の組み合わせから、4タイプを抽出した。
5. なお、全サンプル数1,965のうち、それぞれのタイプに属する数は、表3に示した通りである。

表3・学習タイプ算出の方法

○以下6項目についての加算点を基準とし、下表の通りに分類した。

A	1.教科書の内容をしっかりとぼえる 2.予習・復習をきちんとやる 3.ノートのとり方を工夫する	$\times \times$ \times Δ \circ $\circ \circ$ 1 — 2 — 3 — 4 — 5
B	4.ニュースに関心がある 5.資料や事典で調べるのが好き 6.社会科の授業中、よく発言する	

タイプ	A 得点	B 得点	サンプル数	ネーミング
1	低 3~7	低 3~7	304	無気力型
2	高 11~15	高 11~15	290	充実型
3	高 11~15	低 3~7	51	勤勉型
4	低 3~7	高 11~15	49	ハッスル型

学習タイプと成績

まず、それぞれのタイプと成績との関係からみていくことにしよう。

図27は、成績の自己評価とのクロス集計の結果である。

きわめて一般的には、高学年になるにしたがって個人差が拡大されると言われているが、図27のグラフの形は、みごとにそうした通説を裏づけている。子どもたちの自己評価は、多分に通信簿などの評点によるものと考えれば、高学年になるにしたがって、評点のスケールが3段階から5段階へと細分化されていく過程を如実に表しているとも考えられる。さて、そうした動向の中で、特異な変化を見せているのは、「ていねいな取り組みは苦手だが、活発さなら自信がある」といういわゆるハッスル型に属する子どもたちである。かつては「すべてにおいてダメ」とする無気力型と同程度であったはずが、小学校6年間で充実型に匹敵するまでに伸びている。

以下、このハッスル型の子どもたちを追ってみることにするが、比較の対象として、それと対極をなす勤勉型を選定し、両者を比較しながら、それぞれのタイプのもつ意味を明らかにしていきたい。

図27は、いわゆる自己評価の数値によるものであったから、必ずしも事実と一致していないことも考えられる。そこで、より客観的なデータを得るために、テスト問題を用意し、その正答率で比較することにした。その結果を、表4に掲げてある。

ここでは、学習した内容を、知的理解と社会的判断の2つに大別し、それぞれ正答率の高かった順に並べてある。不等号の向きと5%差を単位としたその数からわかるように、用意した問題の範囲で言えば、ハッスル型が勤勉型をはるかに上回る。勤勉型の正答率がハッスル型を上回るのは、20問中わずかに2問という結果である。なお、紙面の都合で表

からは省いたが、ハッスル型の正答率はほぼ充実型と肩を並べるレベルにある。この結果は、子どもたちの自己評価という限定で紹介した図27の結果が、ほぼ客観的にも実証されたことを意味する。

あらためて、両タイプの学習ぶりを実際の姿に即してまとめておこう。勤勉型は、きわめてまじめにこつこつと努力をするタイプである。おそらく、ノートには整った文字が並び、中には、教科書に記述された中味を覚えるべくアンダーラインを引いている子どももいよう。これに対して、ハッスル型は多分に気分屋の傾向がある。活発に意見は述べるが、ノートにきちんとメモするわけではない。明日社会科の授業があるからといって格別な準備をするわけではないが、その目は確かに社会事象を見つめている。この両者を、成績という点だけから比較しても、ハッスル型が優勢という結果が出た。このことは何を意味するのであろうか。ここで、前章でもふれた社会科という教科に固有の学習方法の問題に論を進めねばなるまい。

勤勉型は、いわば各教科に共通して必要とされる基本的な学習態度と言える。そして、案外、指導者の目はこの部分の態度形成に向けられることが多い。無気力型に比較すれば、勤勉型の成績はかなりの上位に位置するから、こうした指導の重点のかけ方があながち無意味だとは思えないが、ややポイントがずれているという感は否めない。調査の範囲を超えることを承知で言えば、社会科に限らず、各教科の特性から決定されるそれぞれに固有の学習方法が存在するのであろう。それをどう見極め、いかに指導法として具体化していくかということが、各教科の指導を考える上で具体的な課題と言えよう。再び社会科に限って考えれば、指導内容の理解を図るためには、直訳的に理解に向けての努力を期待することよりも、興味や関心を抱かせる指導のほうが、実は効果的だということになる。そして、このことは、社会科という教科の指導法の研究に関わる立場には、けっして目新しいテーマというわけではない。

図27・タイプ別成績自己評価

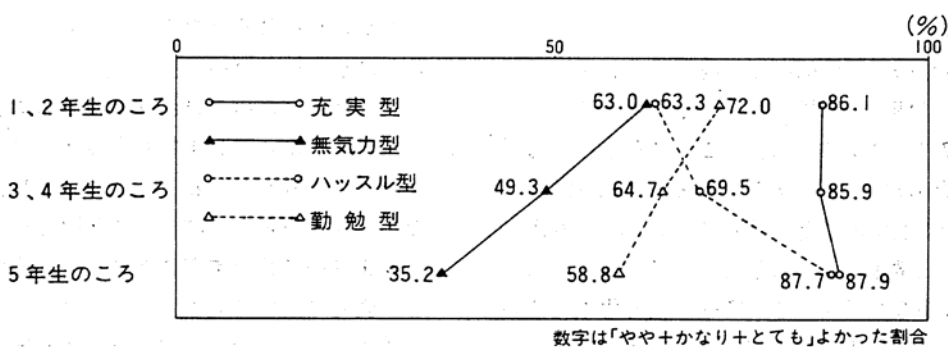


表4・ハッスル型と勤勉型の比較～テスト問題の正答率～

(%)

	問題の内容	全体平均	勤勉型	ハッスル型
知的 理的 解	1. 選挙権を得る年齢	91.9	95.8	95.8
	2. 福沢諭吉の業績	91.8	90.2	93.9
	3. 地図上の方位	87.1	84.0	< 91.8
	4. 奈良の大仏の建立者	83.3	78.4	< 85.7
	5. 豊臣秀吉の事業	72.0	74.5	≪ 89.6
	6. 東海道新幹線の走る県	59.8	60.8	< 68.8
	7. 国民総生産の略称	59.6	61.2	63.3
	8. 第一次世界大戦のあった時代	52.4	46.0	< 59.2
	9. 日本の人口の概数	51.4	49.0	< 61.2
	10. 等高線の定義	50.1	46.9	< 59.2
	11. 国会議員の定数	42.1	45.1	< 53.1
	12. 縮尺と実際の長さ	32.1	30.0	≪ 49.0
社会的 判断	1. 工場の立地条件	89.5	86.0	< 100.0
	2. 漁業の制限区域	85.0	73.5	≪ 93.9
	3. 農業従事者数の推移	84.4	75.0	< 89.8
	4. 工業種別の推移	73.5	80.0	> 73.5
	5. 関税の機能	67.4	70.0	< 77.9
	6. 100年前の人々の衣服	61.6	62.0	≪ 83.7
	7. 学校制度のできた年代	47.4	47.1	44.7
	8. 工場の従事者数による規模の比較	27.8	26.0	< 34.7

(不等号は、5%を単位とした差を表す)

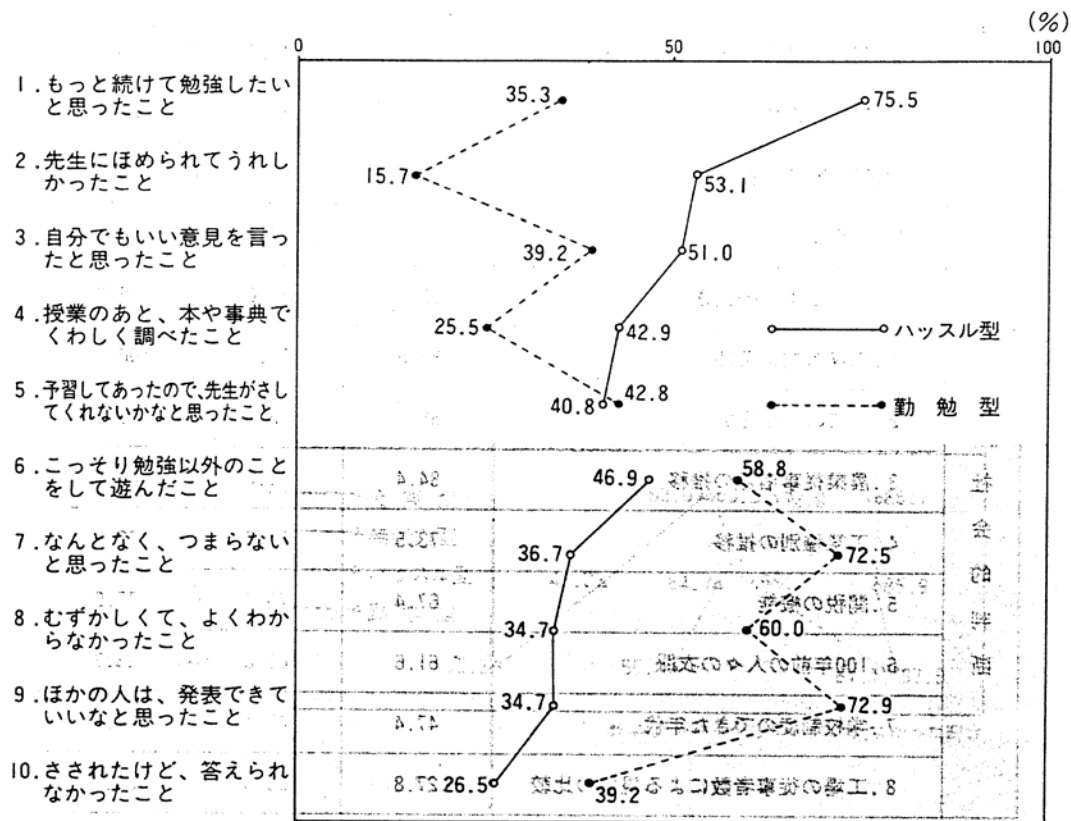
学習タイプと学習観

もう少し、ハッスル型、勤勉型の比較を進めてみよう。

図28は、授業中の気持ちを比較したものである。第2章では性差を、第3章では学力差を同じ方法で考えてきたが、両タイプの間にも、授業中の気持ちにおいて、これだけの差

が認められる。ハッスル型は「もっと続けて勉強したい」と意欲をみせる(76%)のに対して、勤勉型は「なんとなくつまらない」と不満を表明する(73%)。両者の明暗の差は、性差を超え、ほぼ成績上位群と下位群の差に匹敵する。この問いによって明らかになった

図28・ハッスル型と勤勉型の比較～授業中の気持ち～



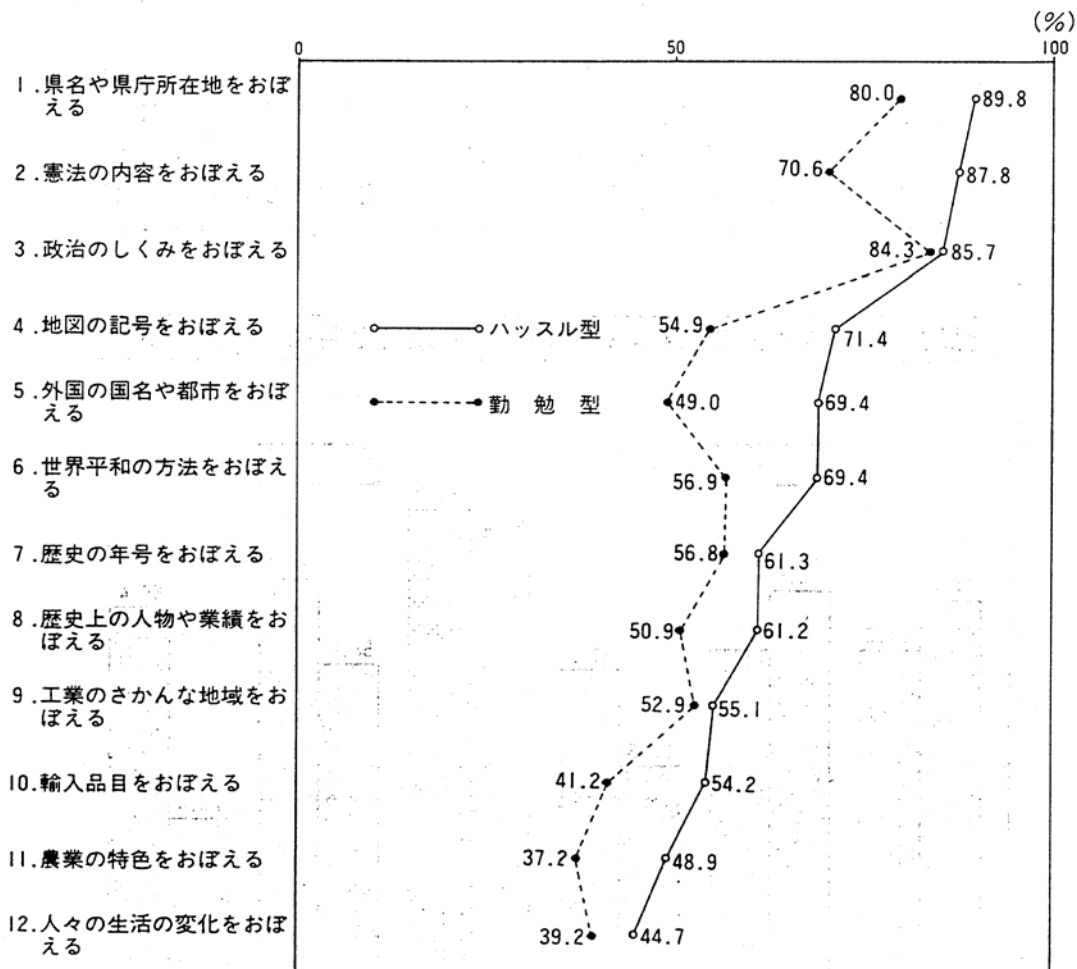
数字は「ときどき+よく」ある割合

ことをまとめておくと、女子——成績下位——勤勉型という属性をもつ社会科苦手群と、男子——成績上位——ハッスル型という得意群とが描き出される。そして、得手不得手を規定する要因として、成績と学習タイプの2つが浮かび上がる。

これほどの意味をもつ学習タイプは、当然ながら、社会科で学んだ内容が実際の生活に役立つかという点に関しても、差を生じさせる要因になっている。図29にその結果をまと

めてある。いくつか接近した数値を示している項目もあるが、ほぼ各項目とも10%前後の開きがある。将来それほど役立つとは思えないから夢中になれないという子どもの言い分もあろうが、ここでは、自らの成績がふるわず、授業中もそれほど楽しくないというやるせない気持ちが、有効性をそれほど信じないという傾向を生んでいるとみるほうが素直であろう。

図29・ハッスル型と勤勉型の比較～学習内容の有効性～



数字は「わりと+とても」役に立つと思う割合

学習タイプと安定感

クロス集計のデータを眺めているうちに、興味深い事実を発見した。図30以下をごらんいただきたい。

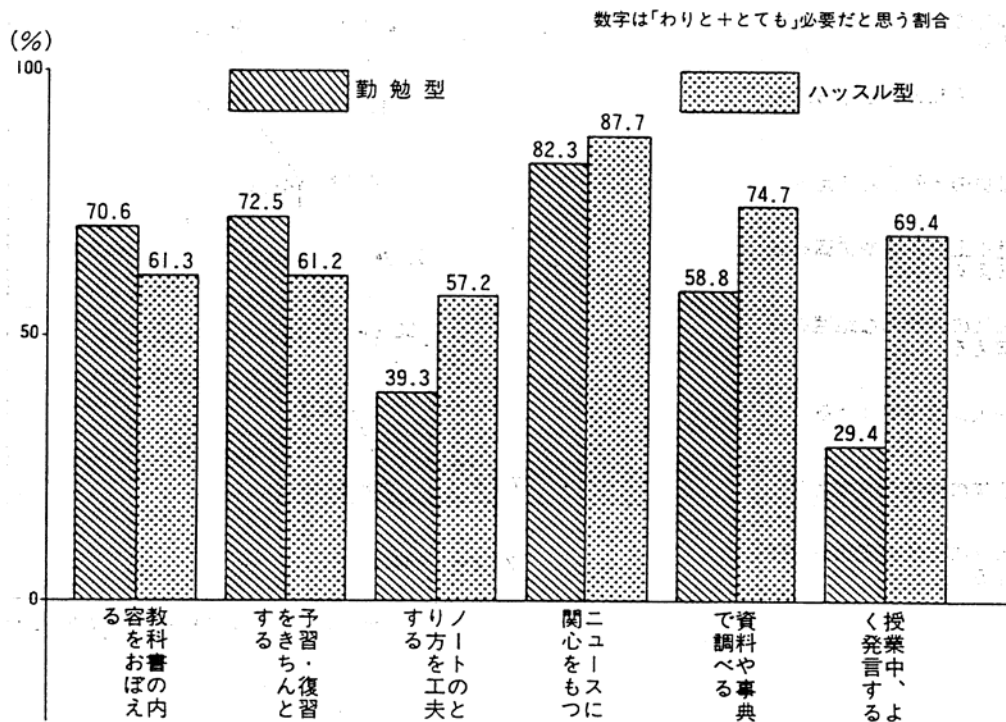
本章で着目している学習タイプは、冒頭でも詳しく述べたように、合わせて6つの学習態度を基準として設定している。それぞれのタイプに属する子どもが、自らの学習ぶりをどう評価しているかを整理した結果が、図30である。

グラフの左端、「今、教科書の内容をしっかりと覚えておくことは、将来おとなになった時のことを考えると、わりと・とても必要である」と考える子どもは、勤勉型で71%、ハッスル型で61%という結果がある。勤勉型の子どもにとっては、もともとそれがある程度できていることが条件であったから、この数

値は、自らの学習ぶりの肯定率を意味することになる。そうした見方をすれば、教科書の内容を覚えることで、勤勉型がハッスル型を上回るという結果は、彼らの安定を意味する。ところが、彼らが最も必要だと考えるのは、自分あまりうまくできていないはずの「ニュースに関心をもつ」ことであり、しっかりできているはずの「ノートの工夫」では、ハッスル型の肯定率をはるかに下回る。さらに、「授業中の発言」については、大半がその必要性を認めていない。

そこで、ノートと発言の2つを取り出し、4タイプで比較した結果が、図31とつぎの図32である。まず、ノートについては、充実型が76%の肯定率を示しているのに対して、同様に努力しているはずの勤勉型は39%と、4

図30・ハッスル型と勤勉型の比較～学習態度と将来への大切さ～



タイプ中最下位の位置にあり、無気力型をも下回る。すなわち、現在自分はノートのとりを工夫してていねいに書く努力をしているのだが、そんなことは将来あまり役に立たないと、自らの努力の効果を否定するのである。

これに対して、図32にみられるように、ハッスル型は、積極的に自らの努力の効果を信じ、肯定しているのである。こうした自己肯

定あるいは自己否定の論理は、勉強に向かう子どもたちの気持ちの中にある安定感の指標として注目しておきたい気がする。その意味では、調査前の予測を大きく上回って好結果をみせたハッスル型の存在が、学校現場でのきわめて具体的な努力の方向を示唆するものと受けとめねばなるまい。

図31・ノートをとることの大切さ×学習タイプ

ノートのとりを工夫して、ていねいに書くことは、あなたがおとなになった時のためにどのくらい必要ですか。

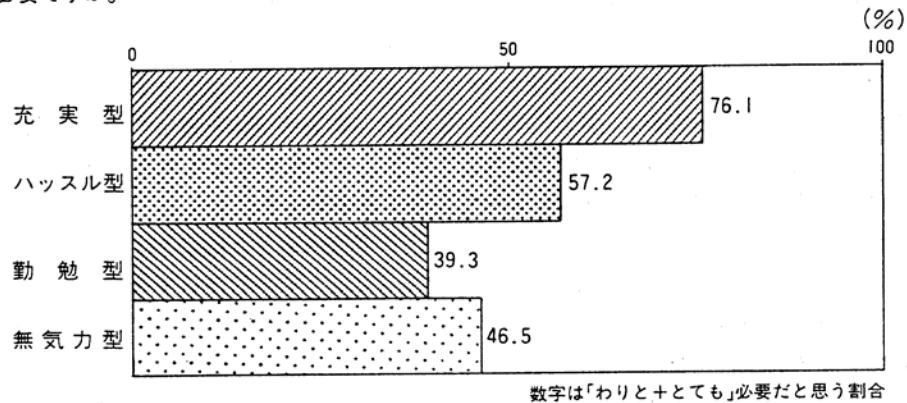
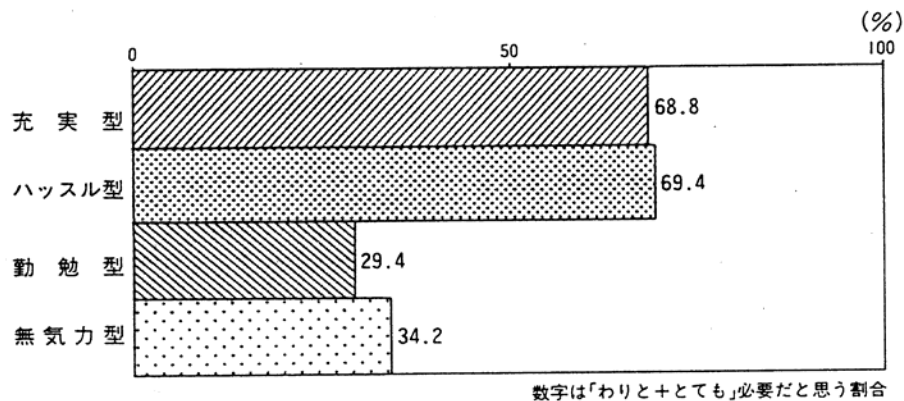


図32・発表することの大切さ×学習タイプ

社会科の授業でよく発言することは、あなたがおとなになった時のためにどのくらい必要ですか。



ま と め に 代 え て

——ハッスル型の子どもと教科・社会科をとらえ直す——

*

パソコンをはじめとするニューメディアを学校教育へ導入しようとする機運が高まってきた。その一方で、教室の片隅ではOHPがほこりをかぶったまま放置されているという現実がある。戦後に端を発した社会科は、その指導法において、そうした機器利用の可能性を大いに感じさせながらも、現実の教室場面では案外平板な説明的授業に終始している現実があるのかもしれない。

一方、「主要教科」という表現に代表されるように、学歴偏重が指摘される情勢の中で、社会科は一定程度の重みを子どもたちに感じさせている。いきおい指導の効率化が要求され、じっくり社会をみつめさせるゆとりが捨象されていく風潮は否めない。

そうした中では、あるいは当然の結果かもしれないが、データが描き出した子どもたちの学習ぶりに明るさを見つけることはむずかしかった。学習に取り組む気持ちの明暗は、その多くが成績によって左右されていた。そして、授業として用意された時間枠の中でこ

そ、一応学習に向かっているのだが、生活全般におよぶ広義の学習が成立しているわけではなかった。その気になりさえすれば、社会科学習の材料には不自由しないはずなのに、それらが有効な刺激になり得ていないという現実は、あるいは子どもたちの抱く学習観、そして、それをかたちづけてきた教師の指導観の問題を予感させる。

本調査の全体を通じて特に印象に残るのは、ハッスル型の子どもたちの存在であった。彼らの属性をみていくと、必ずしも指導する側の意図に応えた結果とは思えない。場合によっては、「一言多い子ども」であるとか「着実な努力ができない子ども」などというレッテルが張られかねない彼らが、確かな自信と見通しをもって学習に取り組んでいるというのは、あるいは皮肉な結果だとも言えよう。改めて、彼らの存在とそのもつ意味に注目しながら、社会科という教科をめぐるいくつもの問題をとらえ直す必要がある。

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

講座●																		
子ども調査入門⑱																		
学業成績																		
																		●放送大学教授
																		●深谷昌志

成績モノカルチャー

おとなはむろんのことだが、子どもたちも自分についてのイメージを抱いている。「体がじょうぶ」「背が高い」「走るのが速い」「声大きい」など、自己像を支えている要因はさまざま考えられる。

子どもの場合、そうした要因のひとつとして、学業成績が位置するのは、子どもが学校へ通っていて、その学校で成績評価が行われていることを考えれば、当然と言えよう。

しかし、日本の子どもの場合、成績が自己像の中で占める割合は、そうしたいくつかのひとつというより、自己像の中核に位置しているようにみえる。

具体例をあげてみよう。図1は、小学高学

年生に「勉強の得意な子」と「苦手な子」とを連想させ、それらの子どもがおとなになったら、どんな生活を送りそうなのかを推定させた結果である。

図から明らかなように、子どもたちは「勉強が得意、あるいは苦手だからといって、将来の家庭生活にそれほど影響を受けることはないかもしれない。しかし、「新しい知識を必要とする仕事につく」、「社会の人から尊敬される仕事につく」といった社会的な達成を可能にするのは成績の良さだ」と信じている。

もともと、こうした結果に、それは幼い子どもらしさのあらわれであり、社会的な見方の成熟する中学生ともなれば、成績の良さをそれほど過大評価しなくなるとも考えられる。そこで、同じ設問を用いて、中学生の反応を

調べると、以下の通りとなる。

	勉強の得意な子(A)	勉強の苦手な子(B)	(A)/(B)
① 社会に役立つ人	45.2%	5.0%	9.0倍
② 社会的に尊敬される	28.2%	5.5%	5.1倍
③ 金持ちになり、広い家	18.5%	5.8%	3.2倍
④ いい父(母)になる	40.8%	29.3%	1.4倍
⑤ みんなから好かれる	32.7%	22.7%	1.4倍

(「ぜったい」「たぶん」なれると思う割合)

したがって、中学生たちも、成績の良し悪しが未来を規定すると信じているのはたしかのように思える。しかも、念のために補足しておくなら、

- ① 成績の良さを高く評価する態度は、高校生の間にも定着している。
- ② しかも図1のような見方は、成績についての一般的なコンセプションでなく、自分の成績と未来像との関連についてもあてはまる。

という傾向が顕著である。

こうしたデータを重ね合わせると、

成績の良さ しあわせな未来

↓

良い学校への進学→社会的な達成が可能になる

↑

といった図式を、小学生はむろんのこと、中学生や高校生も信じているように考えられる。

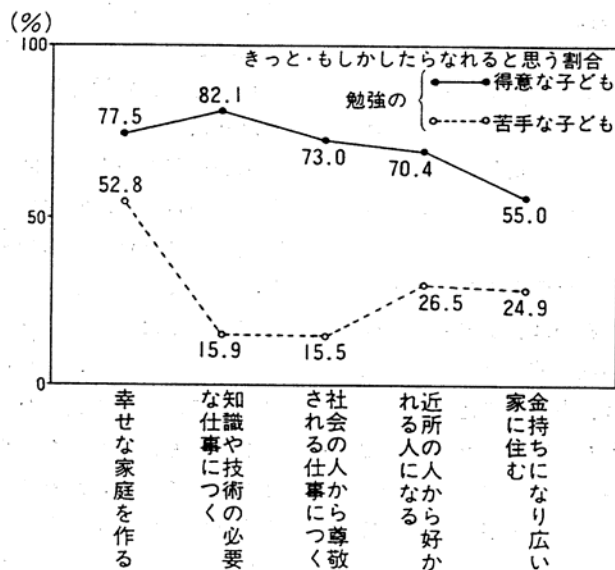
つまり、学業成績の良し悪しが、現在の気持ちだけでなく、未来の生活をも規定するといった感じを子どもたちは抱いており、これは、成績の重みを過大に評価するという意味で、成績モノカルチャーとでも言えよう。

成績と学習努力

このように、子どもたちは、良い成績をとることを大事に考える態度を身につけているが、それならば、良い成績をとるには、どうすればよいと思っているのか。その手がかりを表1に示した。

小中学生の間に多少の開きが認められるが、

図1・勉強の得意な子・苦手な子はどんな未来を送りそうか(小学生)



いずれにせよ生まれつき勉強が得意、あるいは苦手ということはない。授業を熱心に聞き、帰宅後、まじめに予習や復習をするから良い成績がとれる。それに反し、勉強の苦手な子は授業をまじめに聞かない上に、家庭学習を怠けているから悪い成績をとるはめになる。つまり、子どもたちは成績の良し悪しを学習努力の反映とみなしている。そして、たしかに、表2や表3に示したように、勉強の得意な子は、そうでない子より、長い時間、勉強しており、そして、計画をたてて勉強している。

そうした意味からすると、学業成績の良し悪しは学習努力を反映する、という見方は納得できるようにも考えられる。

このように、子どもたちは成績の良さがまじめな学習態度に裏打ちされていると考えている。そうであるから、

まじめな学習態度→成績の良さ

↓

良い学校へ進学←自己像の明るさ

↓ (自信がつく)

明るい未来像

といった論理が成り立ってくる。

事実、中学生たちは、

① 成績が良くなったら

	ふえる	変わらない	へる
自分に対する自信	48%・	50%・	2%
先生との話しやすさ	25%・	73%・	2%
友からの信頼	9%・	87%・	4%

② 成績が悪くなったら

	ふえる	変わらない	へる
自分に対する自信	2%・	50%・	48%
先生との話しやすさ	2%・	73%・	25%
友からの信頼	2%・	88%・	10%

と、成績の上下は、自分の自信につらなるこ

表1・勉強が得意・苦手の理由

(%)

			そ う 思 う			ややそ う思う	思 わ な い		
			とても	かなり	小 計		あまり	ぜんぜん	小 計
勉強の得意な子	授業をまじめに聞いているから	小学	52.8	29.3	82.1	14.1	2.0	1.8	17.9
		中学	43.1	31.9	75.0	15.2	5.3	4.5	25.0
	予習や復習をしっかりしているから	小学	52.1	26.8	78.9	15.8	2.2	3.1	21.1
		中学	30.2	31.2	61.4	24.3	9.2	5.1	38.6
生まれつき勉強が得意だから	小学	17.0	16.0	33.0	41.0	7.8	18.2	67.0	
	中学	10.0	13.4	23.4	26.1	29.9	20.6	76.6	
勉強の苦手な子	授業をまじめに聞かないから	小学	34.1	29.1	63.2	20.9	11.9	4.0	36.8
		中学	43.3	27.8	71.1	19.6	5.4	3.9	28.9
	家で勉強をしないから	小学	45.3	28.5	73.8	18.2	5.5	2.5	26.2
		中学	33.5	28.5	62.0	25.6	7.4	5.0	38.0
もともと勉強が苦手だから	小学	13.0	9.2	22.2	16.5	21.1	40.2	77.8	
	中学	18.3	17.8	36.1	28.8	20.0	15.1	63.9	

設問「勉強の得意な(苦手な)友だちはどうしてそうなのだと思いますか」

表2・家庭学習の長さ×成績

(%)

	0～59分	1時間台	2時間台	3時間以上
全 体	30.6	48.8	13.8	6.7
とても得意	21.9 ∧	44.1	21.6	12.3
かなり得意	24.3 ∧	52.2	15.3	8.2
ふ つ う	30.1 ∧	52.0	12.0	5.8
かなり苦手	39.0 ∧	47.3	10.7	3.0
とても苦手	44.0 ∧	40.6	11.1	4.4

表3・家庭学習の計画×成績

(%)

	たてている	まあたてる	たてる計	あまり	ぜんぜん	たてない計
全 体	9.3	16.8	26.1	32.8	41.1	73.9
とても得意	19.2	28.8	48.3	28.8	22.9	51.7
得 意	11.2	19.5	30.8	36.3	32.9	69.2
ふ つ う	7.5	14.9	22.4	35.2	42.4	77.6
苦 手	3.7	9.4	13.1	32.2	54.7	86.9

ととこたえている。

成績の聞き方

それだけに、学業成績に対する自己評価がどのように分布しているのかが気になりとなる。表4から明らかなように、成績に自信をもつ子の割合は、学年が上がるにつれて減少の傾向を示し、中学生になると、「やや上」を含めても、勉強に自信を持てる生徒の割合は4分の1を割り、苦手意識を抱く者が半数に迫り始める。

もっとも、表5によれば中学生の場合、「授業が7割以上わかる」生徒の割合は、成績の上層8割、中の上層6割程度で、中位の生徒は「半分位しかわからない」、中の下位層は「3

割位しかわからない」となる。つまり、半数ちかくの中学生が、授業がわからない、つきつめて言うなら勉強は苦手だと思いつつ、学校での毎日を過ごしている計算になる。

これらの結果に、今までふれてきた子どもたちの成績観をダブらせると、学習努力が報いられ、勉強はむろん、現在そして未来の自分に自信をもてる生徒は、中学生のほぼ2割、自信を喪失しているのが半数弱という結論に達する。

こうした資料を読んでいると、学校は成績競争を通して、子どもたちの自信を喪失させる淘汰機関なのではないかという疑問がのってくる。

先まわりをして、問題の指摘をしすぎたの

かもしれない。学業成績が、こうした大きな意味をもつので、それだけに、成績のたずね方が重要になる。

表4では、「あなたの成績は、クラスの中でどれくらいですか」の問い方をしたが、これは、成績意識をシャープにとらえたいので、子どもにとって、シビアなのを十分に知りつつも、このかたちをとった。

しかし、一般的に、これほどきびしく問う必要のない場合は、表4より、以下のようなかたちが望ましいと思われる。

- ① 勉強が「とても好き」～「とても嫌い」
- ② 勉強が「とても得意」～「まったく苦手」

③ 国語（または、算数）が「とても好き」～「好きでない」

④ 勉強が「自分に向いている」～「向いていない」

これらの問い方をしたデータでも、基本的には、表4のような結果と一致しており、そうだとすると、子どもたちにいやな思いをさせてまで、クラスの中で「トップ」や「うしろのほう」とたずねる必要はないのかもしれない。このへんは、成績を問題にしたいレベルに応じて、時には①～④のようにやわらかく、そして場合によっては表4のかたちをとるのが、現実的な設問の仕方と言えよう。

表4・成績の自己評価の学年別推移

(%)

	トップクラス	上の方	やや上	中くらい	やや下	下の方	ずっと下
小学4年	8.5	9.5	18.6	43.8	8.9	7.3	3.4
	18.0					10.7	
5年	6.7	9.0	20.1	40.3	11.6	8.5	3.8
	15.7					12.3	
6年	5.8	8.4	22.8	36.2	12.2	10.5	4.1
	14.2					14.6	
中学1年	4.6	8.8	14.6	35.8	21.2	10.5	3.4
	13.4					13.9	
2年	4.3	5.3	13.2	32.1	17.2	16.6	9.2
	9.6					25.8	
3年	2.8	8.2	10.6	32.8	20.1	12.0	12.6
	11.0					24.6	

表5・授業の理解度(中学生)

(%)

		100%	70%	小計	50%	30%	ほとんどわからない
英 語	上	44.9	38.8	83.7	10.9	2.7	2.7
	中の上	12.4	52.2	64.6	28.0	5.8	1.6
	中	6.1	30.5	36.6	40.9	19.9	2.7
	中の下	1.3	19.1	20.4	33.8	34.9	10.9
	下	3.0	15.3	18.3	22.6	25.6	33.6
	全体	9.1	31.8	40.9	31.4	19.1	9.3
数 学	上	31.3	48.3	79.6	12.9	4.8	2.7
	中の上	9.9	49.3	59.2	30.1	8.5	2.1
	中	2.8	28.0	30.8	41.8	23.5	3.9
	中の下	1.1	12.7	13.8	36.0	36.4	13.8
	下	4.0	11.3	15.3	25.0	30.0	29.7
	全体	6.5	29.0	35.5	33.1	22.2	9.3

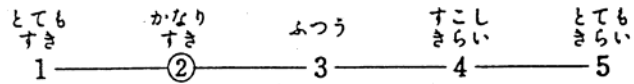


単位：数字はすべてパーセント

これはテストではありません。日本の子どもたちにたくさんおねがいで、その生活をしらべるためのものです。思ったことをそのまま教えてください。

やりかたの練習

あなたはカレーライスが好きですか？



あなたがもしカレーライスを かなり好き だと思ったら上のように番号のところを○でかこんでください。

① まず、あなたの学校名などをおたずねします。

- 1) () 小学校
- 2) 男女 (1. 男 2. 女) (○でかこむ)

② あなたは、つぎの教科の勉強をどのくらい好きかこたえてください。

	とても きらい	かなり きらい	やや きらい	やや 好き	かなり 好き	とても 好き
1) 国語	2.1	5.4	28.0	45.9	13.3	5.3
2) 社会	3.9	9.6	22.8	30.6	16.9	16.2
3) 算数	4.9	9.8	25.5	29.9	16.3	13.6
4) 理科	2.8	4.3	16.7	35.9	23.5	16.8
5) 音楽	7.0	11.4	20.2	27.5	16.9	17.0
6) 図工	1.9	4.5	14.9	30.7	23.8	24.2
7) 家庭科	2.5	4.3	12.4	31.8	24.6	24.4
8) 体育	2.6	2.7	8.5	19.1	21.7	45.4

③ それでは、あなたがおとなになったときのことを考えて、今、とくに力を入れて勉強しておかなければならないと思うものはどの科目ですか。

	ぜんぜん 思わない	あまり 思わない	それほど 思わない	やや 思う	かなり 思う	とても 思う
1) 国語	0.8	1.8	7.6	30.4	28.6	30.8
2) 社会	1.1	2.7	11.5	27.1	29.1	28.5
3) 算数	0.9	1.3	6.1	18.4	29.2	44.1
4) 理科	2.6	8.2	33.4	32.4	14.8	8.6
5) 音楽	11.7	20.0	39.2	18.2	6.9	4.0
6) 図工	7.8	17.3	37.5	24.6	8.4	4.4
7) 家庭科	5.0	7.5	15.4	23.1	18.5	30.5
8) 体育	5.6	11.3	27.1	26.8	15.0	14.2

これからさきは、社会科についておたずねします。

④ もう一度おたずねします。あなたは、社会科の勉強が好きですか。

	とても きらい	かなり きらい	やや きらい	やや 好き	かなり 好き	とても 好き
	4.1	8.9	22.2	31.2	17.1	16.5

④で1、2、3に○をつけた人は、つぎの⑤⑥に、4、5、6に○をつけた人は、⑤⑥をとばして⑦⑧にこたえてください。そして、⑨からは、また全員の人がこたえてください。

⑤ あなたが社会科をきらいだと思理由として、つぎのことがらはどのくらいあてはまりますか。

	ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いえない	わりと あてはまる	とても あてはまる
1) 楽しくない	4.7	18.3	42.3	27.3	7.4
2) よくわからない	4.2	19.2	26.0	36.9	13.7
3) 将来、あまり大切にない	23.7	29.0	29.6	11.8	5.9
4) 先生の教え方がうまくない	30.1	20.9	33.9	9.4	5.7

6 あなたが社会科をきれいになったのは、いつごろからですか。

6年に なつてから	5年の ころ	4年の ころ	3年の ころ	2年の ころ	1年の ころ	もつと 前から
25.5	34.1	21.9	11.7	3.7	2.3	0.8

7 あなたが社会科を好きだと思ふ理由として、つぎのことがらはどのくらいあてはまりますか。

	ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いえない	わりと あてはまる	とても あてはまる
1) 楽しい	1.6	4.5	21.9	47.6	24.4
2) よくわかる	1.9	8.6	33.4	39.2	16.9
3) 将来に大切	2.2	9.7	28.2	35.0	24.9
4) 先生の教え方がじょうず	5.9	9.3	29.6	35.7	19.5

8 あなたが社会科を好きになつたのは、いつごろからですか。

6年に なつてから	5年の ころ	4年の ころ	3年の ころ	2年の ころ	1年の ころ	もつと 前から
30.9	24.8	13.0	11.7	6.3	10.8	2.5

ここからは、また全員の人がかたえてください。

9 つぎの学年のころ、あなたの社会科の好ききらいはどうなつていましたか。

	とても きらい	かなり きらい	やや きらい	やや 好き	かなり 好き	とても 好き
1) 1、2年のころ	3.2	3.9	22.4	44.5	15.1	10.9
2) 3、4年のころ	3.5	5.8	27.1	39.9	15.9	7.8
3) 5年のころ	3.8	11.6	20.9	26.9	22.1	14.7

10 それでは、つぎの学年のころ、あなたの社会科の成績はどのくらいでしたか。

	とても悪かった	かなり悪かった	やや悪かった	やや良かった	かなり良かった	とても良かった
1) 1、2年のころ	1.8	4.6	20.4	45.4	19.0	8.8
2) 3、4年のころ	1.4	5.1	22.8	45.6	16.7	8.4
3) 5年のころ	2.6	8.8	25.0	36.8	16.0	10.8
4) 6年になってから	4.9	11.3	20.4	30.6	17.5	15.3

11 あなたの社会科の勉強のしかたについてこたえてください。

	ぜんぜんあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	わりとあてはまる	とてもあてはまる
1) 教科書に書いてあることは、しっかりおぼえる	3.7	18.4	35.6	34.0	8.3
2) 予習や復習をきちんとやる	15.4	28.6	28.8	18.9	8.3
3) ノートのとり方をくふうする	10.4	21.7	32.2	26.9	8.8
4) テレビや新聞などのニュースに、関心をもつ	9.9	19.2	26.8	30.9	13.2
5) 資料や事典などを使って調べる	9.9	18.9	22.2	31.6	17.4
6) 社会科の授業で、よく発言する	22.9	28.3	27.0	13.2	8.6

12 それでは、あなたがおとなになって生活するのに、今、つぎのような勉強のしかたをきちんとしておくことは、どのくらい必要だと思いますか。

	ぜんぜん必要ではない	あまり必要ではない	どちらともいえない	わりと必要である	とても必要である
1) 教科書に書いてあることは、しっかりおぼえる	1.2	6.4	21.6	47.8	23.0
2) 予習や復習をきちんとする	1.5	5.5	20.4	40.0	32.6
3) ノートのとり方をくふうして、ていねいに書く	3.1	10.6	29.7	35.4	21.2

● 資料1 調査票見本および集計表

	ぜんぜん 必要ではない	あまり 必要ではない	どちらとも いえない	わりと 必要である	とても 必要である
4) テレビや新聞などのニュースを聞く	0.7	4.0	14.6	45.5	35.2
5) 資料や事典などを使って調べる	1.6	6.6	24.5	44.5	22.8
6) 社会科の授業で、よく発言する	4.8	11.6	36.4	30.6	16.6

13) つぎのことがらは、小学校の社会科で習うことです。おとなになって生活するとき、つぎのようなことは、どのくらい役立つと思いますか。

	ぜんぜん 役に立たない	あまり 役に立たない	どちらとも いえない	わりと 役に立つ	とても 役に立つ
1) 地図の記号をなるべく多くおぼえる	0.9	7.6	20.7	48.5	22.3
2) 県の名前や、県庁のある市のお名前をおぼえる	0.5	3.0	13.7	46.1	36.7
3) 日本の農業の特色をおぼえる	1.7	12.7	42.5	34.4	8.7
4) 日本ではどのあたりで工業がさかんか、おぼえる	1.7	11.5	34.7	38.8	13.3
5) 歴史にでてくる人の名前や、その人のやったことをおぼえる	3.0	12.2	27.8	36.4	20.6
6) 歴史の中の大きなできごとの年号をおぼえる	2.7	13.1	29.4	36.1	18.7
7) 昔から今になるまで、人びとの生活がどのように変わってきたかおぼえる	2.1	14.0	34.5	36.3	13.1
8) 日本国憲法の、だいたいの内容をおぼえる	1.2	4.2	15.5	38.9	40.2
9) 日本の政治のしくみをおぼえる	0.8	3.1	14.3	39.9	41.9
10) 日本が外国からの輸入にたよっているものは何かを、おぼえる	1.9	11.1	36.6	37.1	13.3
11) 外国の国や都市の名前をおぼえる	1.8	8.6	24.8	39.6	25.2
12) 世界の平和を守るために、どうすればいいかおぼえる	2.5	7.2	25.0	30.6	34.7

14) あなたは、社会科の中で、どんな勉強が好きですか。好きなものに○をつけてください。○はいくつつけてもいいです。

1. 歴史の勉強 61.2	2. 農業の勉強 19.2	3. 水産業(漁業)の勉強 16.1
4. 工業の勉強 22.9	5. 政治の勉強 33.1	6. 世界の国々への勉強 60.9

15) あなたは、つぎのような勉強のしかたは好きですか。

	とても きらい	わりと きらい	どちらとも いえない	わりと 好き	とても 好き
1) 教科書どおりに進んでいく勉強	4.6	16.9	43.6	29.4	5.5
2) 先生の話聞くことが多い勉強	4.5	14.6	29.0	36.0	15.9
3) 見学を中心とした勉強	1.5	5.6	18.2	34.1	40.6
4) テレビやスライド・OHPなどを使った勉強	1.2	6.0	15.9	42.7	34.2
5) 白地図などの作業を中心とした勉強	5.0	15.4	38.8	27.8	13.0
6) グループごとに調べる勉強	5.6	9.0	23.0	38.6	23.8

16) あなたは、社会科の時間に、つぎのようなことがどのくらいありますか。

	ぜんぜん ない	1、2回 あった	ときどき ある	よく ある
1) 先生にほめられて、うれしかったこと	31.7	37.9	27.3	3.1
2) 予習してあったので、先生がさしてくれないかなと思ったこと	35.7	28.1	25.7	10.5
3) 自分でも「いい意見を言ったな」と思ったこと	32.1	34.5	25.9	7.5
4) 「つぎの時間も続けて勉強したい」と思ったこと	24.6	26.7	33.0	15.7
5) 授業のあと、本や事典でくわしく調べたこと	40.0	30.9	22.0	7.1

● 資料1 調査票見本および集計表

	ぜんぜん ない	1、2回 あった	ときどき ある	よく ある
6) 先生にさされたけど、こたえられなかったこと	17.0	43.9	30.2	8.9
7) むずかしくて、よくわからなかったこと	8.4	31.9	42.8	16.9
8) なんとなくつまらないと思ったこと	9.7	32.3	37.7	20.3
9) こっそり勉強以外のことをして遊んでいたこと	22.4	35.4	26.7	15.5
10) ほかの人はよく発表できていいな、と思ったこと	22.2	20.7	31.2	25.9

17) 社会科の授業で、よくわからないところがあったとき、あなたはつぎのようなことをどのくらいしますか。

	ぜんぜん ない	たまに ある	ときどき ある	よく ある
1) 家の人に教えてもらう	15.0	44.1	27.2	13.7
2) 先生に質問する	47.2	36.8	12.1	3.9
3) 自分で教科書や参考書などで調べる	14.8	30.4	29.4	25.4
4) そのままにしておく	27.0	48.3	13.9	10.8

18) クラスの中で社会科がよくできる人は、なぜできるのだと思いますか。そのような人には、つぎのような理由がどのくらいあてはまると思いますか。

	あまり 関係ないと思う	すこしは あてはまると思う	かなり あてはまると思う	とても あてはまると思う
1) 生まれつき頭がいいから	54.9	31.6	6.5	7.0
2) 新聞やテレビで、社会科の勉強に役立つことをよく見ているから	6.7	32.2	40.0	21.1
3) 学習じゅくに行っているから	23.5	38.3	23.7	14.5
4) 予習や復習をきちんとやっているから	3.5	12.6	38.6	45.3
5) 授業をきちんと聞いているから	3.2	11.1	37.1	48.6
6) 社会科が好きだから	4.8	18.2	33.0	44.0

19) あなたがつぎのようにしたら(なったら)、社会科の成績は、どうなると思いますか。

	今と かわらないだろう	すこしは よくなるだろう	かなり よくなるだろう	とても よくなるだろう
1) 新聞やテレビで、社会科の勉強に役立つことをよく見る	7.9	53.0	27.2	11.9
2) 学習じゅくに行く	22.4	47.9	22.3	7.4
3) 予習や復習をきちんとやる	3.6	17.2	43.8	35.4
4) 授業をきちんと聞く	5.5	17.5	39.0	38.0
5) 社会科を好きになる	11.5	25.0	30.4	33.1

20) 社会科の成績がとくにいい人は、どんな人だと思いますか。

	ぜんぜん 思わない	あまり 思わない	どちらとも いえない	わりと 思う	とても 思う
1) がんばりぬく力がある ……	5.4	14.1	24.0	37.5	19.0
2) やさしく親切である ……	25.4	26.3	36.0	9.7	2.6
3) 友だちから信らいされている ……	19.6	21.8	34.7	18.2	5.7
4) とてもまじめに勉強している ……	5.1	7.1	16.3	44.5	27.0
5) リーダーとしてかつやくできる ……	14.9	16.5	32.9	22.4	13.3

21) それでは、あなた自身はどんな人ですか。

	ぜんぜん 思わない	あまり 思わない	どちらとも いえない	わりと 思う	とても 思う
1) がんばりぬく力がある ……	9.4	28.6	38.2	17.9	5.9
2) やさしく親切である ……	9.7	22.1	44.9	17.3	6.0
3) 友だちから信らいされている ……	13.0	25.0	46.8	11.1	4.1
4) とてもまじめに勉強している ……	18.6	29.2	35.6	12.3	4.3
5) リーダーとしてかつやくできる ……	24.0	29.0	31.9	10.4	4.7

22 つぎの文を読み、()の中からこたえとしていちばんふさわしいものを1つ選んで、○でかこんでください。

- 1) 東京駅から東海道新幹線に乗って200km進むと、(1. 静岡県 2. 愛知県 3. 埼玉県)に入ります。
59.8 29.9 10.3
- 2) 地図では、ふつう(1. 上 2. 下 3. 右)が東になります。
6.7 6.2 87.1
- 3) 等高線は、(1. 東京から同じ距離の点 2. 海面から同じ高さの点 3. 山の頂上から同じ距離の点)を結んで引いたものです。
17.9 50.1 32.0
- 4) 第一次世界大戦があったのは(1. 明治 2. 大正 3. 昭和)時代です。
33.2 52.4 14.4
- 5) 縮尺1:5000の地図で、1cmの実際の長さは、(1. 50m 2. 500m 3. 5000m)です。
32.1 23.5 44.4
- 6) 子どもたちが小学校へ行って勉強するようになったのは、今からやく(1. 50年前 2. 100年前 3. 150年前)です。
47.4 27.3 25.3
- 7) 今から100年前には、(1. みんな着物を着ていた 2. みんな洋服を着ていた 3. 着物を着ている人も洋服を着ている人もいた)。
30.1 8.3 61.6
- 8) 20年前と比べると、日本で農業をしている人の人口は、(1. ふえている 2. へつている 3. ほとんど変わらない)。
11.9 84.4 3.7
- 9) 日本の人口は、やく(1. 1億人 2. 2億人 3. 3億人)です。
51.4 27.9 20.7
- 10) 奈良の大仏は(1. 聖徳太子 2. 聖武天皇 3. 織田信長)の時代にできた。
14.0 83.3 2.7
- 11) 工場の大きさを、働いている人の数で分けると、(1. 500人未満 2. 500人~999人 3. 1000人以上)の工場の数が、日本ではいちばん多い。
27.8 49.6 22.6
- 12) 豊臣秀吉は、(1. 江戸城をつくった 2. 鎌倉幕府を開いた 3. 検地をした)。
9.7 18.3 72.0
- 13) 工場がとくに多く集まっているところは、(1. 住宅地から遠くはなれた山の中 2. 海の近くで交通の便がよいところ 3. 店の多いにぎやかなところ)です。
89.5 6.0 4.5
- 14) 外国から輸入する品物に税金(関税)をかけるのは、(1. いい品物だから 2. 日本の産業を守るため 3. 外国の産業を守るため)です。
13.4 67.4 19.2
- 15) 日本の工業は(1. 軽工業から重工業へと 2. 重工業から軽工業へと 3. ずっと重工業で)発展してきた。
73.5 21.6 4.9

- 16) 海をもつ国のほとんどが、自分の国の沿岸から (1. 100カイリ 2. 200カイリ 3. 300カイリ) 以内では、外国の船が魚をとるのを制限するようになってきた。
7.7 85.0
7.3
- 17) 新しい1万円札にえがかれている福沢諭吉は、(1. 解体新書をほん訳した 2. 「学問のすすめ」を書いた 3. 民本主義を主張した) 人です。
91.8 4.7
3.5
- 18) 国民総生産のことを (1. PPM 2. ILO 3. GNP) という。
21.1 19.3 59.6
- 19) 衆議院と参議院を合わせると、国会議員は、やく(1. 350人 2. 550人 3. 750人) です。
18.2 39.7 42.1
- 20) 日本では (1. 18歳 2. 20歳 3. 22歳) になると選挙ができます。
3.7 91.9 4.4

23) あなたは、つぎのようなテレビ番組をどのくらい見ますか。

	見たことがない	1、2回 見たことがある	ときどき見る	できるだけ 見るように している
1) 歴史ドラマ	6.5	38.0	44.3	11.2
2) 日本の自然を紹介する番組	6.2	36.3	46.0	11.5
3) 世界の国々への生活のよう すを紹介する番組	6.8	33.4	47.0	12.8
4) 大事件を報道する特別報道 番組	3.5	22.0	48.8	25.7
5) 定時(毎日きまった時間に 放送する)ニュース	4.0	17.4	46.6	32.0
6) 農業や工業など、日本の産 業について紹介する番組	12.9	50.1	32.1	4.9
7) ニューヨークやパリなど、 世界の有名な都市を紹介す る番組	10.6	35.9	40.0	13.5
8) 大気おせんや騒音などの公 害のようすを紹介する番組	16.2	46.5	28.7	8.6
9) 政治のことを紹介する番組	19.1	44.1	28.9	7.9
10) 社会科の授業の教材番組	13.8	34.9	40.0	11.3

24 あなたはふだん、つぎのようなことをどのくらいしますか。

	したことがない	1、2回 したことがある	ときどきする	よくしている (できるだけ そうしている)
1) 図書館で、資料や事典など を使って社会科の勉強のこ とを調べる	31.3	47.2	17.7	3.8
2) 歴史に出てくる人の伝記物 語を読む	11.3	36.2	38.6	13.9
3) 新聞のニュースらんを読む	7.6	27.7	42.4	22.3
4) 家族で旅行などをするとき、 地図で、行くところをたし かめる	22.4	30.5	26.2	20.9
5) ひとりで電車に乗って、1 時間以上かかるところに行く	39.9	23.1	22.5	14.5
6) 友だち何人かで、社会科の 勉強に役立つところに行く	52.1	33.7	10.4	3.8
7) 家の人と、大きな事件につ いての感想を言い合ったり、 話し合ったりする	36.7	35.3	21.6	6.4
8) 社会科の勉強のことで、市 役所や町役場などに電話し てたずねる	84.4	11.6	3.3	0.7
9) 本屋さんに注文して、自分 のほしい本をとり寄せる	56.8	23.0	14.0	6.2
10) 5万分の1の地図を買う	78.1	15.9	4.2	1.8

25 小学校での社会科の勉強も、まもなく終わりです。あなたが中学生になったら、どのようなことをがんばろうと思っていますか。

	今のままで よい	すこし思う	かなり思う	とても思う
1) 新聞やテレビで、社会科の 勉強に役立つことを見るよ うにしたい	9.7	41.3	27.5	21.5
2) 学習じゅくに行って勉強し たい	39.1	36.2	15.6	9.1
3) 予習や復習をきちんとした い	4.2	14.7	31.8	49.3
4) 授業中、先生の話をしっか り聞くようにしたい	3.7	11.2	28.3	56.8

	今のままで よい	すこし思う	かなり思う	とても思う
5) 授業中、もっと発表できる ようにしたい	9.0	25.3	36.4	29.3
6) 資料や事典をうまく使える ようになりたい	8.0	26.3	36.2	29.5
7) ノートのとり方をくふうし たい	10.0	24.6	31.7	33.7

26) さいごに、あなたがいちばんとくいな教科は何ですか。1つ選んで○をつけてください。

1. 国語 6.7	2. 社会 10.7	3. 算数 13.2	4. 理科 8.0
5. 音楽 11.6	6. 図工 10.6	7. 家庭科 8.8	8. 体育 30.4

質問はこれでぜんぶ終わりです。長い間、どうもありがとうございました。